

「企業価値評価セミナーと私」

～ 二年半の活動を通じた卒業生の声～

2007年1月

板倉雄一郎事務所

= 目次 =

まえがき	板倉雄一郎	4 ページ
卒業生の声		
学生が受講するメリット	高野 慎一さん	7
『「恐妻家」から「親妻家」に変わった私』	林 龍之介さん	9
プラスのエネルギ-の効果	M.Hさん	13
企業価値評価を学んでいたつもりが、もっと深いものを学んでいました	Macさん	15
投機考	H.Hさん	18
価値が増大していきます！	S.Hさん	24
人生を変えるセミナー	宇治 正孝さん	26
「なりたい自分」に「なる」為の必須科目	柴田幸一・玲子さん	28
企業価値を学んだきっかけとその後	成瀬 陽介さん	31
企業価値評価セミナーについて	Y.Kさん	34
企業価値評価セミナーと私	G.Kさん	36
板倉雄一郎が私のファイナンス師匠	D.Mさん	38
合宿セミナーの素晴らしい効果	プラストさん	39
「実践・企業価値評価シリーズ」合宿セミナー受講後の感想など	Akkiさん	41
企業価値評価セミナー受講後の効用	ホンコンさん	42
経済的自由が見えた！	T.Sさん	44
...そして、もっとファイナンスを学びたい	K.Yさん	47
企業評価セミナーを受講して	Y.Kさん	49
セミナーの効果について	A.Oさん	50
刺激と学びのきっかけ、良き仲間との出会い	K.Iさん	51
板倉でい~えぬえ~	ミナ男さん	53
企業価値評価セミナーに参加して今思うこと	A.Nさん	55
ファイナンスを学んだはずが、生き方を学んでしまった	松岡 聡さん	57
うどんで有名な地域からセミナーへ	S.Kさん	59
企業価値評価セミナーを受講して	大野 武男さん	61
株式投資って奥が深すぎ	A.Nさん	62
企業価値評価セミナーと私	H.Yさん	63
実践企業価値評価セミナーに参加して	N.Sさん	64

「知識」と「自分」が繋がっているセミナー	てっつあんさん	66
企業価値評価セミナーを受講して	坂本 直樹さん	68
人生最後(?)の挑戦	六然さん	71
板倉さんの哲学に触れて	名古屋 Y女史さん	72
はじめの一步	S. Tanaka さん	73
時代にあらがうことのすごさ	板倉 祐治さん	74
企業価値評価セミナーを受講して	T.H さん	77
あろは！企業価値評価セミナー	白澤 秀樹さん	79
合宿セミナーに参加して	木下 亘さん	81
学ぼう！	榎並 顕さん	83
無題	K.N さん	85
企業価値セミナーの効果	S.H さん	86
企業価値評価セミナーへの投資によって得たもの	9 期松浦さん	89
お金と人生の初等教育	T.K さん	91
企業価値評価セミナーを受講して得たもの	T.S さん	95
企業価値評価コミュニティ、そこにある価値	おんちゃん	97

パートナーの声

企業価値評価セミナーと私	S. Takamura	105
企業価値評価セミナーを通じて	国本智映	107
企業価値評価セミナー受講から 2 年半を経て	N. Ohashi	110
企業価値評価セミナーと私	吉原信一郎	112
合宿セミナーと私	石野雄一	115
現代を生き抜く一つの「知」の共有	M. Mori	117
板倉雄一郎事務所と私	下田浩司	119
編集後記にかえて	橋口寛	122

まえがき

ここに記されている「企業価値評価セミナーと私」は、僕自身の過去の活動に直接接したセミナー受講生からの声である。

これまで、WEB 上で公開してきた「卒業生の声」が、セミナー受講直後の受講生の声をまとめたのに対し、この冊子に記載されている声は、彼らが、セミナーで得られた知識や経験を、「その後どのように彼らの仕事や生活に生かしているか」について、受講後しばらく経ってから執筆された文章である。

40 件を超える彼らからの声には、実に様々な受講生のバックグラウンドやセミナーの効能が具体的に記されている。

米国ビジネススクール卒 (= MBA) であるにも関わらず、このセミナーを受講することによって、さらにファイナンスの本質に迫ることができた方。

公認会計士でありながら、このセミナーを受講することによって、持てる知識や経験が有機的につながる感覚を覚えた方。

財務も株式投資にも、まるで無縁な方が、ちんぷんかんぷんの初回受講から数回の再受講を受ける過程で、自力での企業価値評価が行えるまでに成長した方。

ある有名大学の、単位をとるのが難しいはずの「企業金融論」を、一度も授業を受けることなく、このセミナーで得られた知識だけで、難なくパスした学生の方。

就職活動において、有価証券報告書を頼りに、企業選びをすることができた学生の方。

デイトレなど短期トレードにて「ミスターマーケットに翻弄される」精神的な疲労から、価格ではなく価値に根ざした投資活動に変化し、精神的な疲労からの開放と、現実的な利回りを実現された方。

そして、セミナー主催者の立場からすれば「図らずしも」だが、芸術家の夫と商人の家庭で育った妻との口論の絶えない家庭が、円満を迎えたことなど、が記されている。

彼らの声を、セミナーに参加されたことがない方が読めば、おそらく、「板倉雄一郎事務所は新興宗教かぁ!？」と思われる方もいると思う。

そう思われても仕方がないと思う。

しかし、僕をはじめとする当事務所パートナーの活動理念は、「社会から教えていただいた知識を、より多くの人に還元する」であって、間違っても、「自らに都合の良い概念を押し付けることによって、自らの利益を追求すること」ではない。

私達の活動は、綺麗な言葉によって自らの利益を追求しようとするインチキ新興宗教ではないからこそ、論理的に、合理的に、具体的に、ファイナンスやバリュエーションの「考え方」を伝えることを

通じて、多くの人のハッピーを実現しようとするものである。

ファイナンスやバリュエーションを深く追求すると、その先には、必ず「価値を生み出すのは金ではなく人である」という結論に達する。

表現を変えれば、「人の価値にたどり着かない学問など、何の意味も無い」とさえいえる。

彼らのセミナー効能に共通する表現に「ファイナンスを学ぶつもりだったが、生き方を学んだ」というフレーズがある。

僕は、この効能を読み、「継続することの価値」を再認識するに至った。

あらゆる学問は、最終的には「哲学」に通じる。

あらゆる学問は、人をハッピーにするために存在する。

あらゆる学問は、学ぶこと自体に楽しさが無ければ継続不能だと思う。

そうでなければ、学問の価値など無いも同然だと思う。

僕は極めて「飽き性」だと自覚している。

そんな僕が、基本的には毎回変わらぬ収入と、変わらぬ講義を繰り返すことを、とうの昔に飽きて止めていたとしても、全然不思議ではない。

しかし、僕は少なくとも「実践・企業価値評価シリーズ」を継続している。

2007年4月以降も、形式は変更するが、基本的な活動は継続する。

僕が継続を断念しなかったのは、彼らのこの冊子に記録された「セミナーの効能」に励まされ、自分の存在価値を確認することができたからである。

僕が持てる知識の価値を提供してきたつもりだが、彼らの文章を読むうちに、「最も学習できたのは、他でもなく僕自身ではないか」という思いが明確になってきた。

現在の活動を通じ、『継続することの価値』を、彼らから学んだ。

社会に対する価値提供が、いかに「気持ちのいいことであるか」を教えられたのである。

いつまでも「本当のこと」、「本質的なこと」を伝える組織でありたいと思う。

これから続く、彼らの声に、是非耳を傾けて欲しい。

彼らの文章を読むために皆様が差し出す時間以上に、皆様にとって多くの示唆が得られるであろうと思う。

2007年1月 板倉雄一郎

企業価値評価セミナー 卒業生の声

「学生が受講するメリット」

高野 慎一さん

初受講： 2006年4月(14期)

再受講回数： 3回

私は、大学3年でこのセミナーを受講しました。学割があった当時でも、20万円というセミナー代を貯めるのが大変で、毎月2万円！と決めて貯蓄を始め、受講できる日を楽しみにしていた記憶があります。受講から10カ月が過ぎ、改めて感じることは、このセミナーを受講して一番価値があるのは、やはり学生時代だということです。そこで、私が感じた、学生時代にこのセミナーに参加することのメリットを三点ほど述べてみたいと思います。

就職活動が変わる

企業に対する見方が抜本的に変化しました。とも関連しますが、学生と社会人がかかわる機会や場というのは、思っている以上に少ないものです。しかし、大学3年になるとそのような学生が急にリクルートスーツを着て就職活動に入ります。本質的な業務価値や将来性など自分の中に企業を判断する術のない学生は、ブランドで企業を選ぶこととなります。でも、それは自分の意思決定とは言えません。その結果、理想と抱いていた現実のギャップに苦しみ、3年で辞める若者が！？増えることになるのだと思います。

私が、このセミナーを受講して役立ったのは、自分で意思決定をする判断基準を手に入れられたということです。当然、まだまだ未熟な知識ではありますが、やはり自分が受ける企業は自分で本質を見抜いて、納得した上で就職活動をすることに決めました。そうすれば、たとえどのような結果になったとしても受け入れることができ、将来的に自分のためになるのだと思います。

様々な社会人に会える

これは、主に再受講の時に実感しました。現在まで3回近く再受講させていただいていますが、その度に今まで自分の知らなかった業界で活躍している人に出会うことができました。学生の立場では、なかなか社会人の方と出会う機会がありません。それは、結果的に自分が将来やりたい仕事やビジョンが分からずに就職先を決め、そして失望してすぐに辞めてしまう結果となるのだと思います。特にセミナーの終了後の打ち上げは、そのような社会人の方に仕事内容やキャリアなどの点でお話を伺うまたとないチャンスです。セミナー後の疲れ切った体で、しかもお酒の席ということもあり、打ち上げは皆さんが本音で語る場となります。それは、学生からしてみたら業界研究として聞きたかったことを次々と聞けるこれ以上ない場となります。今後も、色々な業界の人と出会えるのが楽しみです。

留年せずに済みました

これはあくまでオマケ程度のものですが、勉強時間ゼロで単位を取れました(笑) 私の通っている大学に企業金融論の授業があります。金融機関の講師や大学教授などが講義にあたるのですが、セミナー受講後は何もせずにテストを受けたにも関わらず、ほぼ満点近い点数が取れました。しかし、あとで知ったことによると、この授業は単位を取るのが難しくて有名な授業だったようです。半期かけても理解できない人が大多数いるのに、たった2日の講義で受講生に伝えられるのですから、板倉雄一郎事務所のクオリティの高さがわかると思います。

…ちなみに、私の友人は金融論を落として留年しました。結果的にセミナーの3倍近くかかってしまいましたとさ。有効な投資をしましょうというところでしょうか。

以上、実際に自分が大学生活を送る上で実感したことを述べました。この他にも、当然ですが本質的な点として年齢が若いうちに受講した方が、時間による将来の経済価値の増大が見込めます。ファイナンスほど、早く知ることによって、将来に影響を与える知識はないのだと思います。今後、一人でも多くの学生がこのセミナーに参加することになれば幸いです。

「恐妻家」から「親妻家」に変わった私

林龍之介さん

初受講： 2006年5月(15期)

再受講回数： 2回

そもそものきっかけ

そもそものきっかけは、妻との出会いでした。といっても、恋愛話をしようというわけではありません。ただ、個人的な事情抜きにはこのセミナーとの出会いと効用は語れないので、あえて書かせていただきます。

1990年代半ば、私は大学を卒業後、官公庁職員向け出版社に勤務しておりました。バブルがはじけた後とはいえ、昼は仕事、夜は勤め先の銀座周辺で飲み、冬は週末にスキー、といった典型的なお遊びサラリーマン生活を送っておりました。しかし、ある女性と出会って、その生活スタイルが変わりました。仕事以外の時間はその女性と過ごすことが増え、将来のことや自分のことを考えるようになりました。当然結婚についても考えましたが、今の生活スタイルのままでは、結婚生活と稼ぎと自分のやりたいことのバランスがとれないと漠然と思うようになりました。そこで、会社をやめ、自宅で陶芸倶楽部をはじめました。陶芸倶楽部だけでは生活をまかないきれないとわかり、その半年後には当時まだ男性ではめずらしかった派遣社員をはじめました。

そのような生活をしながら結婚をしようと思ったのですが、当然のごとく、彼女の両親の理解を得ることができませんでした。彼女の両親に理解をもらえなかったことと、職に対する不安で、かなり精神的にまいりました。最初の就職まで、何事もなく人生を送ってきたのでなおさらでした。

そんなとき、2001年頃ですが、1冊の本に出会いました。ベストセラーとなったロバート・キヨサキ著『金持ち父さん、貧乏父さん』という本でした。たまたま書店で立ち読みしたのですが、驚きました。まるで自分のことのように感じたのです。私の父は公務員、彼女の父は商人でした。私の父は定年を前に、家の建て替え計画を進めていました。しかも、ローンで。

私と彼女は、仕事やお金や時間について違った考え方をしていることを感じていました。それが、この家の建て替えではっきりしました。彼女は「ローンで自分の住む家を建替えるなんて信じられない」といっていました。それは、「金持ち父さん」と同じ意見でした。父は公務員ですが、私自身は公務員ではありませんでしたので、私は考えを改め、ひとまず、「金持ち父さん」の考え方で物事をすすめていくことを決めました。こうして、私の「金持ち父さんプロジェクト」が始まりました。

その後、幸いなことに、私と彼女の家族との縁は結ばれました。そして、実際に妻の両親と過ごす時間が増せば増すほど、私の両親との考え方の違いが溝のように感じられるようになっていきました。それは、妻と私の間での口論、つまり、言葉の解釈をめぐる争いという形になって現れていきま

した。しかも、何かが違うということだけがわかっていて、その原因がはっきりとはわかりませんでした。もちろん『金持ち父さん、貧乏父さん』には、私ができるように全てが書かれているわけではありませんでした。妻そして妻の両親の思考や言葉使いを理解したいと思うものの、その実態がつかめず悩みました。私には転校の経験はないのですが、きっと転校生とはこんな気持ちなのだろうと思っていました。

初めての株購入と恐怖

そんな最中でも、私の「金持ち父さんプロジェクト」は進行していきました。2003年に、これ以上株価が下がることはないだろうと思い、初めて株を買いました。1株あたり20万円で買った株に、半年後、50万円を超える価格がつきました。一見成功に見えますが、この半年間は、わたしにとって恐怖以外の何ものでもありませんでした。私の中に何の基準もしくみもなかったため、株価が結果として上がっていったにもかかわらず、不安と恐怖が増していったのです。毎日、株価のアップダウンにはらはらし、チャートを眺めては「今日こそ暴落するのではないか」と心配し、結局、それが嫌になり、止めてしまいました。そして、そのお金を元に、あるフランチャイズに加盟しようとしていました。実際、加盟はしませんでした。フランチャイズのしくみについて何もわからずに加盟しようとしていたのです。『金持ち父さん、貧乏父さん』の中にある「資産をつくる」ということばかり頭にあり、本書に説かれていた「会計学を学ぶ」についてはすっとなでいました。そもそもの「何か」が欠落している、と強く認識したのは、やむにやまれず別のビジネスの代理店に加盟した後でした。その代理店加盟は失敗でした。ここでようやく、ファイナンスについて学ぶ気になりました。

とはいうものの、その当時の状況としてファイナンスについて学ぶにはどうしたらいいのかわかりませんでした。『金持ち父さん、貧乏父さん』の中には、詳しい解説はありませんでしたし、その手の本は開いても全くわかりませんでした。私にとって、大学に入って勉強するのは現実的ではありませんでした。子供の誕生や資金、時間の問題もありましたが、そもそも学校には行きたくなかったのです。そこで、セミナーを受けることに決めました。最初に受けたセミナーはファイナンスについてのセミナーではありませんでしたが、そのセミナーが縁で、知人から『社長失格』という本を薦められ、板倉さんのサイトを知りました。エッセーを読みだし、すぐに「受けたかったセミナーはこれだ」と思いました。ただ、セミナーを目の前にして、すぐに受けるに至りませんでした。というのも、推薦書に目を通した際、数字に対する苦手意識があらわれ、講義についていけない自分が目に浮かんでしまったからです。

そうこうするうちに、セミナー価格が20万円から25万円に変わり、決断しました。なんとなく、このセミナーが無くなってしまわないかと感じたのです。そして、もしこのセミナーを逃したら、妻、そして妻の両親が持つ世界との「通訳」を失うような気がしたのです。非常にかっこ悪い動機ですが、切実でした。

セミナーを受講して

とうとう、2006年5月、「企業価値評価セミナー」を受講しました。

結果は・・・散々たるものでした。セミナー前日に熱を出し、そのまま2日間セミナーを受けました。初めて株を買ったときと同じ、アップダウンを感じ、乗り遅れているという恐怖を感じました。帰りの電車の中での気分はまるで死人のようでした。板倉さんの熱さとパートナーの方々のフォロー、そしてセミナー全体に漂うサークルのような楽しさがなければ、きっと途中退場していたと思います。

ただ、次の日読んだ板倉事務所のエッセーがまるでそれまでとは違ったものとして感じる事ができました。それから、もう一度、エッセーを読み直し、これまで面倒だった算数、というか数字を読むようになりました。

そして、9月、それから11月にセミナー再受講をしました。この再受講という制度は全くすばらしい制度です。私のように、そもそも何だかわからない恐怖を退治しようと参加している人間は、何度か同じ講義を受講しなければその恐怖の存在すらわかりません。そして、3回受講したところ、いつのまにか恐怖感がなくなっていたのです。というか、恐怖により体や思考が固まるということがなくなりました。今にして思えば、その恐怖の源は、「資本主義経済というしくみ」への無理解でした。別の表現をとれば「利回り」への無理解でした。私は、得体の知れないお化けを怖がる子供のようなものでした。

そして、いつのまにか、妻の実家に行くことにプレッシャーを感じなくなっていました。といいますか、妻の両親と話しをしようとするプレッシャーを感じ思考停止していたということに、今になって気がついたのです。そして、そのプレッシャーは何だったのか、ようやくわかりました。私は、商人である妻や妻の両親の思考の中にある「資本主義経済のしくみ」、「利回り感覚」に対して、無理解でした。会話の中に、ビジネスや金融商品の話しがでてくるのですが、そのビジネスの中にある「しくみ」「利回り感覚」に対して無理解でした。金融商品の中にある「しくみ」「利回り」に対して無理解でした。そもそも自分の中にそのしくみが無かったのですから、無理解が生じるのは当然といえば当然です。この無理解が会話の中で双方に「？」という気まずい雰囲気を生み出していたのです。それが私にプレッシャーとなって重くのしかかっていたいました。お蔭様で、3回目のセミナー受講を経た頃には、家族の会話の場に自然にいられるようになっていました。

さて、表向きのセミナー受講目的、「企業価値評価による株式投資」はまさに実践中です。利益確定していませんので何ともいえませんが、セミナー価格25万円「以上」の価値があると実感しています。初めて株を買ったときと異なり、恐怖と不安で株価チャートを見つめることもなくなりました。

そして、私はそれよりももっと大きいリターンをすでに得ることができました。それは、「恐妻家」ではなく、「親妻家」になれたことです。夫婦で、仕事やお金や時間、つまり人生や将来に対する考え方に共通認識を持てることほど自由なことはありません。逆に、そういった考え方について不安視した

り、いがみあっていることほど不幸なことはありません。セミナーの趣旨とは関係ないことかもしれませんが、思考の一道具として、資本主義、ファイナンスの考え方を知ることができたことにより、妻の考え方を理解できるようになり、夫婦間に新たな理解が生まれました。本当に感謝しております。ありがとうございました。

思考というのは無意識なものなので、当たり前の人には当たり前すぎて、その思考を持ち合わせていない人に説明するというのは難しいものです。「企業価値評価セミナー」はファイナンスという思考世界のすばらしい通訳者であります。

5月にセミナーに出席してからまだ8ヶ月しかたっていません。妻に出会ってから十数年があつという間に過ぎていったことを思うと、にわかには信じられません。何やら重い文章となりましたが、このセミナーを経て、一つ重荷が解け、一つ自由になった気がします。これから楽しく学び使い続けていこうと思います。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

「プラスのエネルギーの効果」

M.Hさん (男性)

初受講: 2005年11月(10期)

再受講回数: 2回

受講のきっかけ

パートナーの橋口さんとは、ビジネススクール留学時代の同期(別の学校ですが)であり、橋口さんのブログから板倉さんのHPを知ったのが最初の接点だったと思います。

板倉さんの『社長失格』は、それ以前に読んだことがあり、「あっ、『社長失格』後の板倉さんは、こういう場で活躍しているんだ」と嬉しく思ったことを今でも覚えています。板倉さんのブログの内容を読み、その具体的かつ説得力のある文章の虜になり、貪るように過去ログを全て一気に読み漁りました。

その後、板倉雄一郎事務所パートナーの石野さんと銀座界限でランチをし、セミナーの魅力を吹き込まれ、受講することを「ほぼ」決めました。(石野さんとは、某自動車会社の元同僚です。)

「ほぼ」と言うのは、別に石野さんを信用していなかったというわけではなく、ビジネススクールに行っておきながら、今更ファイナンスを人から教わることに對して若干躊躇の気持ちがあったことです。但し、その躊躇は杞憂であったと、後に気付かされることになります。

石野さんとお会いした時と前後して、ライターをしている我が家人が、偶然にも板倉さんご本人に取材する機会がありました。家人経由で「あの人と話していると、とにかく楽しい。それに何だかよく分からないけどすごい」というお墨付きを頂き、受講を決意する運びとなりました。「旦那選びは失敗したけど、私の人を見る目は確か」と自信満々に述べる家人の言うことを、100%信じることにしたわけです。

セミナー受講

そんな私のセミナー受講は、2005年11月のこと。板倉さんに会える、そんなドキドキした高揚感を持ちながら、会場に向かいました。

一コマ目の板倉さんの講義を聞いた感想は、衝撃の一言。目から鱗が落ちっぱなしでした。その珠玉の言葉を一言たりとも聞き逃すまいと、必死にメモを取りました。エクセルの計算なんかはこの際どうでも良く(ビジネススクールで散々やりました)、板倉さんの話される根本の原理原則にただただ聞き惚れていました。

受講後の懇親会で板倉さんから「MBA 取った人でもためになった?みんな本当のこと言わないからなあ…」と確認されましたが、私としてはビジネススクールで学んでいたからこそ、その凄さを肌で体感することができた、と断言できます。

正直な話、1 回目では完全な理解までは至らなかったというのが事実です。再受講をして、セミナーで学んだことを自分の周囲に正しく伝えられるレベルまで理解を深めよう、と心に決めたのは言うまでもありません。

セミナー再受講

結局、再受講をできたのは半年後のことでした。この2回目のセミナーを受講して、何より驚いたのが、板倉さんの話もちろんのこと、各講師陣の講義内容が前回のセミナーより大幅にパワーアップしていたことです。現状に甘んじることなく、講義内容を常に見直し、受講生に対して継続的に価値を提供し続けるんだ、という強い思いが、そこからは伺えました。

そして、また半年後、3 回目のセミナーを受講することとなります。毎回参加する度に、「次はどんなところが洗練されているのだろうか？」と、期待を持って参加するようになりました。本当でしたら、毎回再受講をして、その進化を味わいたいと思うのですが、なかなか都合がつかず、これまで本受講 + 再受講 2 回だけしか受講できていません。本当は、もっと味わいたいんですけど。。。

受講後の私

日常の仕事では、人事を生業としているため、ファイナンスの知識を使うことが殆どありません。そんな私にとって、セミナー参加はファイナンスとの接点を辛うじて保てる、良いペースメーカーとなっています。

それに加えて、板倉さんを始めとしたパートナーの方々のプロフェッショナル精神、ホスピタリティ精神は、大きな刺激となっています。果たして、今の自分はあそこまでのプロ意識を持って仕事をしているのだろうか、自分自身が仕事を楽めているのだろうか。セミナーを通じて、そのことを自問することとなりました。

実は、ファイナンスを学ぶことよりも、そういった板倉雄一郎事務所の集団が持つプラスのエネルギーの恩恵に浴することができたことが、自分の精神にもいい影響を及ぼしました。

このセミナーと出会えたことに、心より感謝しています。私の周りの色々な方々との貴重なご縁が、私をセミナー受講へと導いてくれました。今考えると、セミナーに出会えたことは必然だったのでしょう。

板倉雄一郎事務所から学んだことを、どう花咲かせるかは今後の自分自身にかかっています。そして、セミナーで得た知識を、正しく、そして誰にでも理解できるように、少しでも自分の周りの人たちに伝えていくことが自分の使命だと思っています。

未筆ながら、今後とも板倉雄一郎事務所の末永い事業の発展をお祈りしています。

素敵な笑顔の集団に出会えたことに、心から感謝しています。

「企業価値評価を学んでいたつもりが、もっと深いものを学んでいました」

Macさん（男性）

初受講： 2005年2月（3期）

再受講回数： 10回以上

ブログ： <http://mac-miyata.jugem.jp/>

ただひたすら、「自分の頭で」「深く」考える -
これが、僕がこのセミナーを受講して得た一番のものです。

僕は、糸井重里氏の「ほぼ日」に掲載されていた「懲りないくん」の愛読者でした。
もちろん、僕が惹かれたのは板倉さんの派手な遊びっぷり(笑)。当時プイプイ言わせていた僕は、ある意味、嫉妬に似た感情を抱いていました(笑)
その後、「社長失格」を読み、神奈川 KSP での講演～ブログを経て、「板倉雄一郎」という人は僕の中でどんどん大きくなっていきました。
当時、仕事でJVを失敗させてしまったこと、株式投資も失敗続き・・・
セミナーの約20万円という金額は正直 僕を迷わせたものの、まさに満を持しての受講となりました。

財務の「ざ」の字も知らずに今まで投資をしてきたので、まさに失敗の連続。当然ながら、セミナーの内容も高度で、付いていくのが精一杯。
その時、席を並べていた同期生、名古屋のSさん、名古屋の不動産王Hさんとともに奮闘したことは、2年経った今でもまだ鮮明に記憶に残っています。
実はこのセミナーを受講するためにノートPCを買いました。セットアップに手間取り、ほとんど徹夜で臨んだのですが、ハッキリ言って一瞬たりとも眠くなることなどありませんでした。
お金とは何か？ 企業とは何か？ 社会へ価値を提供するということは？ 価値と価格の違いとは？ 債権者とは？ 投資家とは？ 経営者とは？ CFと会計の違い？・・・
全てが僕の中で新しく、そして刺激的過ぎました。
それまで約30年生きてきた謎がひとつひとつ解かれていくような、本当に不思議な感覚を覚えています。
そして、世の中のものは全て何かしら相互に影響しあっているということ、静的でなくて動的で、ループ系であること、実はすごくシンプルであること、を学びました。
更にファイナンスの奥に「人の心」があるということ・・・そこまで思いをめぐらせる事ができるようになったのです。

僕は、このプロセスで得たものが一番大きかった。

それは、”ひたすら、「自分の頭で」「深く」考える”ということです。

今まで、NEWS を見ても、新聞を読んでも、分からないことをそのまま放置しておくことが多々ありました。投資においても同様で、分からないままに多くの金額を無駄にしてきました。消費においては、わからないものにお金を使うことなど絶対にしないのに、投資においては違ったのです。

これに気づいたのは大きかった。

恥ずかしながら、やっと、本当の意味での「考える」・「脳みそを使う」ということを知ったのです。

また、板倉さんの話は、ファイナンスを読み解く方法と同じで、全てにおいて考察が深く、そしてシンプルで、本当に面白かった。

更に、20万円という金額を投資してセミナーに参加している仲間は、本当に「意識」が高かった。

そして「裸」だった。そして、皆が自分の「価値」を提供しようとしていた。

この方達と出会えたこと、これは一生の財産です。

今もファイナンス以外に色々な付き合いがありますが、ファイナンスという共通言語を通じて…いまやその言語を発しなくても心が通じ合っている感覚すら覚えます。

以上の全てがクセになり、僕は再受講を10回以上も経験しています。

その毎回ごとに飛び出す、板倉語録を僕はすべて PC にメモをとっています。

- ・価値と価格の違い
- ・社会へ価値を提供すること
- ・ファイナンスも恋愛も、全ての原理原則は同じ
- ・世の中はループ系である
- ・「自分の頭で」「深く」考え、そして行動する。

以上、このセミナーで得たものはとても書ききれません。

最後に、受講前と受講後で何が変わったかを書き、結びたいと思います。

人生が変わりました。

本当にそのぐらいのインパクトがありました。

ありがとうございます。

心から感謝しております。

「投機考」

H.Hさん (男性)

初受講: 2005年6月(6期)

再受講回数: 10回程度

私の初受講は2005年夏です。

動機のひとつに、「短期トレードに嫌気が差した」というのがあります。

その頃綴った日記を載せさせてもらおうと思います。

金融改革による規制緩和、
ネット証券の台頭による手数料のディスカウント、
時限立法によるキャピタルゲイン課税の低減、
IT革命によるデジタル技術の普及。

これらは、いままで機関投資家に対して
圧倒的に不利だった個人投資家に恩恵を与えました。
オペレーション環境や情報量の格差が縮まったのです。

マスコミや情報誌も、こぞって取り上げます。
チャートの本や銘柄情報が書かれた本が売れます。
それは、個人投資家への支援のためでしょうか。
出版社の利益のためでしょうか。

チャート(株価変動)をもとに、投機を始める人が増えていきます。
価格変動は分かりやすいからです。
しかし、なぜ上がるのかなぜ下がるのか、分からないままメンタルを振り回され、
損失を被って撤退する人もいる。
絶対数が多い。株式投資はギャンブルだ、となる。

車を運転する人はまず教習所で運転の仕方を学んででしょう。
マーケットには、それがありません。
試みってみることは大切です。いいとか悪いとかではないです。
ただ、損失を被った人は、

運転の仕方も分からず自損事故を起こしたに過ぎないということを認識しているでしょうか。

日中の値動きを見れば、マーケットで短時間にどれだけの金額が動いているかに愕然とするでしょう。もし、これの一部でも取ってこれれば、欲が動きます。短期の価格差で利益をもぎとってくる。トレードです。

社会は、相互扶助によって成り立っています。自分の身の回りのもので、「自分が一から作ったもの」ってそんな無いですよ。働いて世の中に何かを創りだして、給料 = 「お金という交換券」をもらって、他の人が創りだしたなにかと交換したんですよ。物々交換の延長線にすぎません。

では果たして、短期トレーダーの創り出すものとは。

企業価値とは、将来に渡って当該企業が創出する価値をDCF法によって期待収益率で割り引いた価値の総和です。

つまり、時間経過が無ければ、価値は創造されないということになります。価値を創出するには、「働く時間」が要るのです。

では、数分～数十分で過剰な利益を叩き出すトレードが出来たとして、その利益はどこから出てきたものでしょうか。何を創出した対価として利益を得たのでしょうか。

その資金投入時間当たりの企業価値創出分を超える利益は、既存株主からぶん取ってきたということになります。ほとんどの時間、キャッシュは証券口座に滞留します。残念ながら、価値を生まない行為なのです。

しかも、トレードの技術はそれ自体、普及を拒みます。ゼロサムだからです。普及すれば、自分の取り分が減りますよね。

そもそも、日本人のメンタリティは農耕民族系です。
安定と平穩をととても大切にしますし、
協調性を持って作り出すことに、元々長けているのです。
なんでもアメリカの真似をすればいいってもんじゃないですね。
向き不向きがあるのですから。

短期トレードは価値創造しない以上、奪い合いになります。
つまり、周りはみな敵になってしまうのです。

しかも、価値創造しないのにPCの前に座っている労働時間のようなものが要ります。
トレードで食べていくということは、価値を生み出さない事に労力を投入し続け、
ずっとマーケットと向かい合い、人生を過ごすということになってしまうのです。

いずれ、最悪の質問を自分に突きつけることになるでしょう。
「果たして、自分は社会にとって必要なのか」
価値創造していない以上、この質問から逃れることは出来ません。

だから、私は短期トレードによるマネーゲームに興じ、
ゼロサムの世界に生きることをオススメしません。

別に長期で持てばいいといっているわけではありません。
でも、キャッシュは、増えるところに置いておきましょう。時間と共に増えてくれるでしょう。

でも、急ぐ必要はないですし、
必要なら、まずは地道に知識を、技術を習得すべきです。
運転できないのに、車を買っても仕方ないように、
価値も分からないモノを買っても仕方ないのでから。

この文章は、受講後に自分宛に書いたメッセージです。
受講前には認識すら出来なかったものを得て、嬉しかったのでしょう。

再受講も何度と無く(おそらく10回くらいは)しました。

その度に新たな発見がありました。
自分の成長を認識できるのは、とても楽しい事です。

例えば他にも、社会事象をファイナンスの観点から客観的に見られるようになるというのがあります。
これは、ライブドアショックの時に綴った文章です。

ライブドアショックで世間が騒いでいます。

ストップ安が続いているから、すごく下がってきたら買い時じゃない？
なんて話を聞く事があります。
これは、「価格」だけに焦点を当てているという事に他なりません。

同じ株式を購入するという行動でも、
「価格」を判断基準にするなら「投機」です。
「価値」を判断基準にするなら「投資」です。

価格だけを見て購入決定をする人は、
「お金を払って何を買っているのか」が分かっていないと思います。
株式を買う。儲けたい。けど、何を買っているのかは分からない。
これでは購入した株券は、値動きを期待するだけの紙切れってことになっちゃいます。
ギャンブルです。

価格は、分かりやすいです。毎日上がり下がります。
けれど、その「価格差」で利益を出したとして、
「その利益はどこから出てきたものか」説明できる人は、どれほどいるのでしょうか。

当該企業の時間経過における価値創造分以上の利益を得たのであれば、
企業活動から生じた利益が投資家に還流されたのではなく
既存株主からぶん取ってきたものになります。
奪い合ってどうするんですか。
創るチカラを高めるべきです。
日本がメシを食えるのは、海外から外貨を獲得するチカラがあるからでしょう？
でなければ、こんな資源の無い国が、なぜ現在のような豊かさを享受できるのでしょうか

か。

投資は、現在のキャッシュを将来生み出されるであろうキャッシュと交換しているだけだからです。

例えばです。僕が「投機」で一番イヤなのは、
いわゆる「価格差だけを利用した利益」を求める人があまりに増え、
価値を生み出す「労働」をせずに、皆が投機にいそしみ続けた結果、
真面目に働いている人が搾取を受け続け、潰れていくことです。

また、若くて能力もあるのに働かなければ、他の人にその負担が行きます。
働いて、その労働価値分の対価をもらって、それでもって生活していくのが基本です。
価値が生み出され続けられないのであれば、経済は最終的に終わってしまいます。

いくらカネがあったって、働く人がいなくなったらモノもサービスも存在しなくなりますし、
そもそも、通貨そのものが国力を担保にしているので、
その国が価値を生み出す力を無くせば、紙幣なんて紙切れになります。
マネーゲームに興じ続ければ、自分の暮らしていく環境を、
じわじわと壊していってしまうのです。

一生懸命働いても報われないなら、みな働く意欲が減衰してしまいます。
マイナススパイラルは継続し続けるのです。
若者が夢を持たない社会。社会構造が軋みをたてます。

「投資」= 企業価値を算定する事は、非常に大変です。
直接金融です。株式購入とは、その企業に資金提供していることと同義です。
変な会社に資金提供する人が少なくなれば、
それだけでまっとうな会社をサポートすることにもなります。

1000円の値打ちがあるものが500円で売られていれば、お得だと思って買いますよね。
価値算定が出来れば、投資も同様です。

ただ、「将来のキャッシュフローとの交換」である以上、

それがどれくらいのお値段になるかは人によって違うと思います。
体系的に学習する必要があります。

必要ないならいいんですけど、少なくとも年を取り労働能力が衰えた時、
一般的には年金と貯蓄で生活するわけですよね。
国の運用能力って、そんなにあてになるでしょうか。
貯蓄は景気の変動でその価値が減ったり増えたりするわけですが、対応できるでしょうか。

ガツガツ稼ぐんじゃないです。
キャッシュは、二極化で偏るのではなく、ゆったりと社会を流れ続ける方がいいと思うんです。
超デフレも超インフレも、ずっと続けば経済に負担をかけます。
ほどほどが一番です。

ファイナンスの学習はさっさとやってしまったほうが、より楽しい毎日を過ごせるのかもしれませんが、
向き不向きがあるので、一概にオススメできる訳ではありませんが、私はそう思います。

「価値が増大していきます！」

S.Hさん (男性)

初受講： 2006年7月 (18期)

再受講回数： 0回

最初このセミナーを知ったいきさつは、海外でMBAを取得した友達からビジネススクールの話聞き、MBAについてネットで調べていくと、パートナーの橋口さんの留学当時のブログに行き着きました。その2年間に渡る示唆に富んだブログを読み終えた後、橋口さんが現在書かれているブログ後日乗に行き着き、そこで板倉事務所について知りました。それから板倉さんが書かれているブログを毎日読むようになり、理解できないことが多いながらも感覚的に板倉さんが書いていることは正しいと感じ、ファイナンスがわかるようになりたいという思いを募らせていましたが、その時期は丁度自分が海外に駐在であったためセミナーに参加できずにいました。日本から「社長失格」「おりおぼ」などを送ってもらって読んでいたのですが、2006年夏に日本に帰国したときにどうしても受講したいという思いを抑えきれず、第18回セミナーの参加を申し込みました。

2日間のセミナーは期待以上にエキサイティングでした。ついていくので精一杯でしたが、すごく集中した時間でした。そして受講を終えた当時、その段階で既に支払った価格分の価値は十分にあると思っていました。

現在セミナーを受講した後、すでに5ヶ月がたちます。その後も海外への長期出張が続き再受講にはまだ参加できていません。しかしながら、受講によって芽生えたファイナンスの知識の芽がどんどん育っていくように感じられます。「SMU」、「KISS」、「DEEP KISS」の内容が以前より深くわかるようになり、面白くなって何度も読み返しました。「社長失格」も読み直しました。受講前に読んだときはストーリー展開の面白さ、シリアスさに引き込まれていたと思うのですが、受講後に読むとファイナンスの側面を追いかけても非常に示唆するところの多い本だと気づきました。DVDも何度見直しても新しい発見があります。

プレミアクラブのオンラインバリュ会に立候補し、必死にある企業のことを調べてバリュエーションシートを作り、参加者の皆さんからコメントをもらい、自分にフィードバックできたのもとても勉強になりました。自分でバリュエーションをして気に入った銘柄を買い始め今のところ順調です。丁度日本に帰国していたときにリアルバリュ会、クリパにも参加し、とても楽しかったです。

板倉事務所の活動というのは参加すると本当に価値がどんどん増大していくようになっていてと実

感しています。時間と共に価値が増大していくようにも感じます。実は橋口さんが書かれた「パートナーシップ・マネージメント」を数日前に読んだのですが、そこに書かれてあった、まず価値を提供しようとするみんなが本当に思っているコミュニティであるからだと思います。上記した板倉事務所が提供しているサービスの一つ一つは、板倉さんやパートナーの皆さんが、楽しみながら価値を提供する思いから、自然発生してきたものだろうなと思います。自分自身もこれから積極的にいろんなことに参加、挑戦して、少しでも価値を提供していけたらと思っています。

「人生を変えるセミナー」

宇治正孝さん

初受講： 2006年5月(15期)

再受講回数： 1回

必要なものからは逃れられないということを聞いたことがありますが、人生においては自分に必要なものとの出会いというものがあるようです。最初の出会いでこちらが見過ごしていたとしても、あるいはこちらの準備ができていないために見逃していたとしても、必ずまた向こうからやってくるという機会が…。人生において、自分にとって都合のよいことも悪いことも全て意味のないことなど何も無い。50年以上も生きてると、それくらいのことはわかってくるようです

1990年頃だったでしょうか？ Copeland の「Valuation」を日本の Mckinsey が紹介していました。東京日本橋の丸善でたまたま手に取った「Valuation」。その後、大阪で Mckinsey による valuation についてのセミナーを聞く機会がありました。「手間隙かけて企業価値を算定している暇があったら、企業が抱えている問題の解決をして業績を上げることを先にやるべきではありませんか？」と質問すると、「私もそう思う。」などという意外な答え？ が返ってきた。(笑) まさか、あれから十数年経って、valuation のセミナーを受けることになろうとは思わなかった。

もうひとつの出会いが板倉氏の「社長失格」。書店に平積みされていたその本を見て引き寄せられたが、なぜか、手に取ることはなかった。それにしても何という強烈なタイトル。あれから数年。家内が「おりおば」を買ってきた。著者は板倉雄一郎氏？ もしかして…。と調べてみるとあの「社長失格」の著者ではないか？ 一体、どういうことなのだ。それから、板倉氏の著作は全部読んだ。ブログの存在をそこから知り、セミナーのことも知った。50を過ぎて、この勉強をするの？ というときどきはあったが、自分の弱点は素直に認めることにした。

2006年3月のセミナーに参加したかったが、仕事の都合で見送り。何とか5月の連休の第15回のセミナーにキャンセル待ちして参加。セミナー前日の夜には実父が倒れ、今回も見送りか？ というアクシデントもあったが、何とか翌朝始発の飛行機で東京に飛んで、滑り込みで参加。

初日最初の Excel の講習から素晴らしかった。自分で Excel を使うのも久しぶりだったが、そこでさりげなく扱う例題がにくい。国本嬢のキャラとの組み合わせも絶妙です。再受講のときに気づきましたがセミナー全体の構成を本当によく考えてあります。

板倉さんの講義は予想以上に素晴らしいものでした。テキストよりも DVD。DVD よりもやはり現物です。板倉さんのノン・バーバル・コミュニケーションは想像以上です。対面のコミュニケーションに優るものはありません。にもかかわらず、自分のようなものでも本当に2日間で valuation ができるように

なるのかという不安が時折頭をよぎる。でも、何とかできた？えっ？本当に自分でできたの？というのが正直な気持ちでした。もちろんスタッフにアシストしてもらいましたが…。このように、せっかく、身銭を切って参加したセミナーだったのだが、セミナー終了後は会社の仕事の忙しさにかまけてなかなか自習？が進まなかった。さすがにこのままではいけないと思い、10月に再受講を計画。

実は10月の再受講の前に、第一回ビジネスプレゼン大会を聴講。これが、またよかった。

ばらばらだった自分の仕事のやり方が、このときの板倉氏の一連の発言を機に、一気に整理された。テーマがビジネスプレゼンテーションだったので、プレゼン大会の最後に、プレゼンのためのtipsを板倉氏がまとめてくれたのだが、これが的を射ていて素晴らしかった。(Tipsはブログにも掲載されています。)実は、その後気づいたのですが、この時、プレゼンのテクニックではなく考え方、姿勢を教わったのだということに気づきました。「考え方が変われば行動が変わる。行動が変われば結果が変わる。」と誰かが言っていましたが、僕の場合は、この時を境にまさにそれが起こり始めました。

そして、最初の受講から5ヶ月後の第一回目の再受講。セミナー自体が進化していたのには驚いたが、自分自身の気づきが増えたのには驚いた。このようなセミナーの質を維持し、進化させ続ける板倉事務所の方々には敬服します。

自分自身の株式投資のために valuation をする機会は相変わらず先送りにしているのですが(笑)、再受講後、自社の新事業の価値算定に valuation をやりました。これをきっかけに自分自身のビジネスのスタイルが従来とまったく変わってきたと最近気づいています。これがビジネスか…。この歳になってようやくビジネスらしいことができるようになってきたと感じています。やればやるほど新たな気づきがあり、奥は深いです。

人生を変える出会い。板倉さんの本との出会いが、板倉さんやパートナーの方々、セミナー参加者との出会いを生み出しました。このセミナーにはファイナンスの知識を求めて参加したつもりなのですが、今、こうやって振り返ってみると、自分自身の価値観を創り上げるために必要なフレームワークを提供してもらったような気がします。

自分の人生を振り返って、ようやく自分の思っている方向へ動き出した自分自身を感じています。今までだったらあきらめていたことをあきらめなくなりました。経済以外のできごとを見ていても、その捉え方が変わってきたことに気づいています。そして、何よりも、人生を楽しめるようになったと思います。お楽しみさまでした！

世の中に価値を提供すること。困っている人を助けること。この歳になって目を覚まさせてくれたことに感謝します。板倉さん、パートナー、卒業生のみなさん。今後ともよろしくお願いします。

「『なりたい自分』」に『なる』為の必須科目」

柴田幸一さん・玲子さん夫妻

初受講： 2006年7月(18期)

再受講回数： 1回

ブログ： <http://shibatch.txt-nifty.com/>

2006年1月、

僕達はこれから訪れようとしている様々な不安に怯えていました。
来年借りる事になる住宅ローン、一向に増えない銀行預金、
先月契約した生命保険は、
満期で元本割れしないその内容に当時は満足しておりましたが、
家計をかなり圧迫していました。

そんな頃に、たまたま書店で見つけた本が「おりおば」でした。

パラパラと立ち読みをしてみると、

どうやら僕は「おばかさん」に該当するようだ。

しかも、その内容に反論できない。

悔しかったので、即買いました。

内容はもちろん納得でした。

そして、一番心に響いたのが、あとがきの最後の一行

「価値を生み出すのは、金じゃない、人なのです。」

シビれました。

そして、板倉さんのブログを見るようになりました。

その頃、

どう資産を運用したらいいのかが、もっばらの夫婦での議題でした。

「俺、株を始めようと思うんだけど…」

「私、FXの方がいいと思うんだけど…」

と、二人が手にしてた本は、
いわゆる「年で億稼ぎました」な本で。
今思えば、危なかったです。
どうやら、板倉さんのブログを読んでも、
お金と経済のしくみを知り、企業価値を評価できる人による株式投資こそが、
ローリスク・ハイリターンのようなのだ。

そして、手始めに参加した2月のオープンセミナー。
この時、すでに僕の腹の中は決まっていた。

「ブログを読破して、セミナーに参加しよう。」

そして、7月に夫婦そろってセミナーに参加しました。
夫婦そろっての参加は珍しいそうです。
でも、夫婦で参加するのはいいですよ。
一番近くにいるパートナーと共に、
お金と経済のしくみについて理解を深める。
何がいいって、相手に対して腹が立ったり、疲れたりする事がなくなります。
同じ価値観を互いに磨く訳ですからね。
だって、夫婦のもめ事って、お金が関係してる事って多くないですか？
近々、再受講も予定しています。
更に理解を深めたいと思います。

「おりおば」と出会ってちょうど1年になります。
セミナー、ブログ、書籍、DVD等で理解を深めていく事で、
お金の流れだけでなく、
人の心までもが見えるようになった気がします。
そのおかげで、
素晴らしい人達とも知り合う事ができました。
また、逆に、
距離をおかなければならない人達もできてしまいました。
でも、

なりたい自分に近づいてる事は確信しています。
自らが創り、社会に提供できる価値は何か、
次第に見えてきました。
板倉さんをはじめ、パートナーの皆さんのおかげです。
ありがとうございました。

「企業価値を学んだきっかけとその後」

成瀬 陽介さん

初受講： 2004年11月(2期)

再受講回数： 2回

私は、2005年1月の第2回(合宿形式では第1回)企業価値セミナーに参加しました。当時は、元ライブドア社長の堀江氏が本を出版したり、村上ファンドが度々マスコミに報道されたり、株式市場がにぎわっていました。私も株式投資を始めなくてはいけないと思い、株式投資セミナーを探していました。しかし、テクニカル分析について教えるセミナーはあっても、ファンダメンタル分析を詳しく教えるセミナーは、全くありませんでした。ちょうどその頃、GMOの熊谷氏が本を出版し話題になっていました。そして、私は熊谷氏のHPから、板倉さんのHPの存在を知るようになっていました。板倉さんのことはTV東京の番組で何度か観たことがありましたが、話が面白い人という印象しかありませんでした。はじめて、板倉さんのHPを観たときに、TVの印象と書いてあるエッセーにすごく差があったこと、ファンダメンタル分析について詳しく書いてあったことなど様々なことに興味を惹かれ、毎日HPを観るようになりました。

私が板倉さんのHPを観始めたときは、まだ企業価値セミナーの個人募集はなく、団体のみの募集でした。第1回個人向け企業価値セミナーの募集があったとき応募しようかと思いましたが、高額過ぎると思い、応募しませんでした。その後、マッキンゼーの企業価値評価の本を買い、独学で勉強しましたが、SMU117号の簡単な例題さえ解くことができませんでした。これでは「いつまで経っても株式投資を始められない」と思い、第2回企業価値セミナーに応募しました。そのときは「理論価値を割り出せるようになれば良い」と思っていました。

セミナー受講時の私の知識はBS,PLが何となく分かる程度でした。セミナー当日は、とにかくエクセルシートを作るだけで精一杯でした。パートナーの方々や第1回セミナー受講生のヘルプがあったので、2日間でエクセルシート作り、理論価値を割り出せるようになりました。私は「これで株式投資が始められる」と思い、それだけ満足していました。その後、すぐにいくつか企業価値評価を行い、株式投資を始めました。

初めて、板倉さんとパートナーの方々と会ったときは「何て魅力的な人たちなのだろう」と思いました。とにかく、たのしそうに数時間も話をするからです。それも、相手を選ばず、私のような平凡な社会人にも、会社経営者にも、起業家にも、同じように、たのしそうに何時間も話をしていました。当時は明確に再受講制度がなかったので、もうお会いすることはないと思っていました。しかし、板

倉さんの実家の近くで、受講生も含めての新年会があり、またお会いすることができました。新年会でも板倉さんやパートナーの方々、たのしそうに話をしていました。その新年会の2次会を近くのカラオケで行いました。1曲も歌わずに3時間以上、殆ど板倉さんの講演会でした。

そのときの内容は私にとって衝撃的でした。バフェットの話、ソフトバンクの話、おりおばの話、CAPMの話、経営の話、など様々な内容でしたが、その全て企業価値評価の理論が元になっていたからです。その話を聞くまでは、企業価値評価は理論価値を割り出すだけのモノ、株式投資のみに使うモノと思っていました。その2次会で、企業価値評価を理解すれば、企業、経済、社会、お金に関する様々なことを理解できるようになると知りました。

その2次会の帰りに「もう一度エッセーを読んで」と板倉さんに言われ、読み直すことにしました。読み返して見ると、書いてある内容が理論的に解かるようになっていました。セミナー受講前は、何となく解かった気になっていただけでした。

第3回セミナーの前に、ライブドア日本放送買収事件があり、受講応募の数が、私が受講したときの3倍になっていました。「エクセルのヘルプをするなら再受講できる」と言われたので、再受講することにしました。ヘルプできるかどうか不安だったのですが、再受講したときは、楽に内容を理解できるようになっていました。

それから、第4回、第5回のセミナーを再受講しました。その後は、再受講生が多くなってきたので、していません。その代わりに他のセミナーやクリスマス、BBQなどイベントに参加しました。また、このセミナーで知り合った方々とは、今でも仲良くさせてもらっています。

セミナー参加後は、私の資産の殆どを株式投資に使うようになりました。理論価値が解かっているので、日々株価をチェックするようなことはありません。理論価値と株価の乖離よりも「この経営者は信頼できるか、この企業は価値創造を行っていくか」を考えるようになりました。企業価値評価の理論は、割安か割高かを割り出すだけではなく、企業が価値創造を行うために必要な知識であると思っています。

企業価値評価が解かるようになると、あらゆる角度から物事を観れるようになります。会社の仕事も「社会に価値を提供できているだろうか」と考えるようになりました。ニュースを見ても、株主や顧客だけの視点ではなく、他の視点から、企業価値の観点から、その事象がどうなのか考えるようになりました。

また、企業価値評価が解かるようになると、正直であること、誠実であることがリスク認識を低下させて価値を向上させることが解かります。価値提供をせずに、価値を摂取すれば、短期的にはプラスになるかもしれませんが、長期的にはマイナスになることが解かります。誠実に価値提供することが、長期的に効率良くに価値創造できることが解かります。価値観を共有できるグループに所属することが、効率良く価値を向上できることが解かります。そのことが解かるようになり、株式投資以外

でも、仕事でもプライベートでも「自分はこのグループに何を提供できるか。自分は誠実に人と接しているか。このグループと価値観の共有ができているか」を考えるようになりました。このセミナーで知り合った方々も同じようなことを考えて行動しているので、一緒にてとても心地良いです。

企業価値セミナーに参加して良かったことは、株式投資を安心してできるようになったこと、様々な視点から物事を考えられるようになったこと、自分が社会に何を価値提供できるか考えるようになったこと、誠実でたのしい方々と友だちになったことなどです。

「企業価値評価セミナーについて」

Y.Kさん (男性)

初受講: 2005年7月(7期)

再受講回数: 1回

受講のきっかけ

現在勤めている会社で経営企画を担当することになり、買収案件などに関わる中で、財務・ファイナンスの知識を正しく得たいと思い、いろいろなセミナーを探していました。そんな中、ブログを書いておられた板倉さんが非常にいいことを言っていると共感し、この人のセミナーを受けてみたいと思ったことです。

このセミナーを受講して良かった点

いくつかありますので、箇条書きで書かせていただきます。重要度は順不同です。

1. ファイナンス・資本主義経済の仕組みについて正しく、かつ、わかりやすく、根本の部分を理解することができた点

2. 企業(主に株式会社)の仕組み、企業の存在意義・存在価値、経営者の役割について理解を深めるきっかけと知識を与えていただけ点

こちらに関しては、企業の理念・存在意義といったもの、また、株主・従業員・顧客・取引先等といったステークホルダーへの公正な利益の分配を経営者が担っているということを知ることができたので、現在勤める会社での経営陣としての役割を再認識し、理念の構築、確信するのに大変役に立ちました。もちろん、今でも考え続けており、その際の役に立っていると考えています。

3. 個人的な資産形成・資産運用の考え方が大きく変わった点

受講した際には個人の資産運用などには興味がなかったのですが、業務に役立てようという思いで受講しましたが、受講していく中で仕組みがわかるにつれ、役員(従業員)として企業に関わることと同様に、出資者(株主)として企業に関わることも社会的な意義があることという理解できたことが大変ためになりました。労働を提供し、賃金を得るのと同様、資金を提供し、配当やキャピタルゲインを得ることを当然として捕らえられるようになりました。

受講して何が変わったか

上記3.にて書かせていただいた部分とかぶりますが、宵越しの金を持たない性格だったのですが、しっかり貯蓄をするようになりました。(笑)

つまり、労働による対価としての賃金だけではなく、資金提供による対価としての収益を得られることに気づくことができたという点です。

私自身、もともとの考え方は、貯蓄して将来使うのと今使うのであれば、間違いなく今使ったほうがリスクが少なく良いと考えておりました。(当時の考えでは、事故などにあって使えなくなる可能性がある、自身の給与所得の増大やインフレによる貨幣価値の相対低下のリスクなどを想定していました。)ただ、運用による利回り部分を考えた場合に、そのリスクを補って余りあるだけのリターンがあるということに気づき、大きく考えを変えました。

具体的には、預貯金は月末給料日前にはほぼ確実に数千円～良くて数万円という生活をしておりましたが、現在では数百万円の資金を運用できる程度に貯蓄しました。もっと増やし、かつ社会に対して還元していければと思っています。

もう一点、上記2.に書いたことに近いのですが、経営者としての視野が明らかに広がりました。受講前までの経営に関しての考え方は従業員にフォーカスをあてすぎていたように思います。私の働くモチベーションの根っこには「自分の周囲にいる人とお互い笑顔で幸せに暮らしたい」というものがあり、(これは現在でも、「自分の周囲」の定義の拡大を除けば、大きく変わってはおりませんが)、自分の部下、同僚、上司を幸せにするための仕事を行っていました。

現在では、株主、取引先といったその他のステークホルダーへの分配を適正に行うことが、長期的な視点に立ってみると、結果として従業員を含めた全体の幸せにつながっていくということが、腹の底から理解でき、実施に向けて努力を惜しみなくできるようになりました。

これは、言われてみれば簡単で、当たり前のことではありながら、受講前までの自分ではハラオチしていたとは言えず、本当の意味での理解、納得をできたことが行動にも影響するくらいのインパクトを与えています。

受講させていただいて、良い気づきを与えていただいたことに感謝をしております。

「企業価値評価セミナーと私」

G.Kさん (男性)

初受講: 2006年9月(19期)

再受講回数: 1回

私は、株式投資などを普段行った事がなく、ましてや会社経営、財務関連の部署にいるわけでもない。それなのに、“気が付いたらセミナーへ参加していた”。会場へ、実際に足を踏み入れた時は、そんな気持ちだった。

私は2006年9月の19期に初受講したKといい、普段は通常の生活に並行し、学生の頃から変わらず音楽活動をしている。その中で価値というものへ敏感になれた所があり、「知らない」という事に怖さも感じて来た。そういう意味ではセミナーへの受講のきっかけも、端的に言ってしまうと恐怖心からかもしれない。

音楽では、とても重要なのが、人の作品を聴く事。

「知らない」という事で、想定されるデメリットがある、という事も理由の一つだが(例えば、“引用”なのか知らずに“パクった”のか、では大違い、など)、一番は、まだ知らない素晴らしい音楽に出会いたいから。知らなかったら一生想像も出来ないようなものがまずあるし、そういうものに出会えたら心から楽しい。刺激や影響も受け、結果自分のハードルも高くなる。作品というものは自己の満足の度合いと、他人との満足の度合いの違いが評価になる。自己の満足がまず一番に来るから、その自分のハードル設定が非常に重要になる。地殻変動が起きて座っている場所が山にでもなるなら別だが、ただ待っていたのでは高い所までは行けやしない。もし自分が動かなかった事が原因で、例えば死ぬ直前なんか素晴らしい音楽に出会ってしまったとしたら、とても後悔すると思う。そういう類の後悔が、一番怖い。だから、今出来る限りでは、自分から求めて行きたい。

そういう考えが自然に経済にも向いた。何故ならどんな活動にもお金と無縁のものは無く、年を重ねる毎にそれはより肌を感じるようになったから。何も知らない事は自分が一番良く分かっているし、その怖さの後押しもあって、ある時期から経済の知識や情報を漁り始めた。

初めて板倉氏の存在を知ったのは丁度初受講の一年前くらい。起業家の集まりに講師として参加されていたのをたまたま知って、ブログもそれから拝見し、板倉氏の発言は他のそれとは違って、概念を担保する具体的なものがあつたし、良い意味でのくだらなさ、楽しんでるなぁ、という雰囲気から、親近感も沸き、「まずここに身を任せてみよう」と思った。そしてセミナー参加を目標にしてからは追われるように、何度もブログでエッセイを読み、色々な書籍も読み、準備万端では無いが、もう行くっきゃない、という所まで自分に追い詰められ、いざ初受講。どうせ受講するなら早ければ早い

方がいいと思っていたから、なだれ込みだった。

初受講を終えて、何より良かったと思えた事は、受講に踏み切った事。踏み切れた事。準備して行動を起こした上で、セミナーの内容が思っていた範囲であり、つまり自分にはきつつく且つ納得感、充実感があった事。その満足感で、やる気がどんどん沸いて来た。そして板倉雄一郎事務所、セミナー卒業生のコミュニティ自体の素晴らしさ。これは自分が努力してどうにかなるものでも無いから、実は一番凄い事かもしれない。セミナー以外の催し物では普段交われないような情報に触れられるし、本当にとても凄い事だと思う。それとついでと言っては何だけれども、持ち帰ったエクセルシート、これは得がたい。ノウハウの塊、これ。ましてや一度再受講した際の自力(とは全然言えないが、)で作ったバリュエーションシートはととても自信になった。

そうやって得たものを使って、自宅でシュミレーションモデルを作ってみたり、メーリングリストなどコミュニティの会話を共有したり、考察している内に、自分から出てくる言葉が、変わって来た。自分なりに噛み砕いて話も出来るようになった所もあるし、考え方がより具体的になった。これが、普段の仕事で非常に使える。

私は営業職だが、 $ROIC-WACC=SPRED$ がプラスからくる企業価値の増大というのがある程度腹に落ちたお陰で、自然と提案内容が変わってきて、そこから組み立てる話はこちらも強く話が出来るとし、相手も受け入れ易いようだ。

これ、当たり前と言えば全くもって当たり前だが、自分でバリュエーションまでやった後では、思いつく事も、ディテールもちょっと違う。

その中で一番のポイントは、WACC(資本コスト)の重要性を実際のエクセルシートで数字で目の当たりにした事。それによって調達側の事を良く考えられるようになった事。この WACC、非常に深い。本当に肝だと思う。こういう本質は音楽も含めて全ての物事に通じる所。だからこういうものをエクセルでいじくる事が音楽にも日常生活にもいい影響があって、逆に今度は音楽や日常で得られた示唆がエクセルシートに返ってくるという、いいループが生まれる。

最近では経済の事を考えるのがホント楽しい。これからも勉強を続けて行きたい。板倉雄一郎事務所には、当分お世話になろうと思っている。

「板倉雄一郎が私のファイナンス師匠」

D.Mさん (男性)

初受講: 2006年4月(14期)

再受講回数: 1回

私が板倉さんのブログと出会ったのは、確か2005年の夏ごろだと思います。あの頃の私は、税理士試験の勉強をひたすらやっていた時期でした。ファイナンスの言葉すら知らない人間が、板倉さんのブログを読んでもチンプンカンプン(笑)。そんなある日、ホリエモンに関するブログが書いてありました。

感想は、「この人は、どんな知識でライブドアを分析しているのだろう」そして板倉さんの知識を吸収したいと思ったので、おりおばセミナー・第14回企業価値評価セミナーに行きました。

この企業価値評価セミナー受講の時は、私は税理士事務所を退職したばかりでした。理由は、うつ病になったことでした(笑)。そんな頃に行った私は、このセミナーを受講して人生が変わりました。なぜなら、「企業は人なり」の重要性を知ったからです。企業価値向上は、人ありきと言う事です。この言葉は将来の私にとってとても重要な言葉となると思います。また、セミナーの雰囲気がとても良く、楽しい時間を過ごしたことを思い出します。

社内では、なかなかファイナンスの知識を知る人がいなく、全うな経営をするという共通認識がありません。個々で仕事をする姿勢が強く、でたらめな知識が根付いています。本当に基本中の基本がわからないのに、社内では上場の準備をしています。これが、ほとんどの会社ではないと信じたいと思います。

セミナーで出会った受講生はとても魅力的な人ばかりです。株式投資でも会社経営にしても人が価値向上をつくと受講生は知ってます。特にファイナンスの知識は、当たり前な事を当たり前にならない人が多いです。おりおばの本はぜひ買って読んでほしいひとつの本です。

今後は、セミナーで出会った受講生と情報の交換等して、将来は彼らとビジネスをしたいと思いません。

これからの私は、「一度の人生だから楽しく過ごす」をテーマにしていきたいと思います。プラス思考でいられる自分になりたいと思います。

「合宿セミナーの素晴らしい効果(個人投資家編)」

ブラストさん (男性)

初受講: 2006年2月(12期)

再受講回数: ?回

ブログ: <http://plaza.rakuten.co.jp/itiokuenn/>

受講したきっかけ

たまたま、ブログで板倉雄一郎事務所の存在を知り、オープンセミナーとおりおばセミナーに参加する機会があったのでこれは何かの出会いだと感じ、参加することにしました。それがきっかけで合宿セミナーを受講しました。

再受講について

再受講に参加したのはまだ一回だけですが、集中して知識をなるべく多く持ち帰るようにしたので満足です。ただ参加すればするほど自分に対しての未熟さと課題が見つかります。独学だけでは気づかないことではないでしょうか？その後の懇親会も受講内容と同じぐらいとても大切なものです。

このセミナーを受講して良かった点

受講内容はとても素晴らしいものであった。それ以上に日頃の生活では感じることのできない心地よい空気感や、熱意あるパートナー、受講生と出会うことができた。一番良かったのはお金には替えられない大切な事に気づいたことです。

受講して何が変わったか

私は合宿セミナー後、ひたすら楽しい企業価値評価を続けてきました。参加するまでの自分と参加した後の自分。個人投資家の一人としてどれだけ変化があったのか振り返ってみました。

私が金融投資に興味を持ち始めたのは18歳の頃。投信や外貨預金、債券投資などを始めて、もうすぐ9年目となります。昼の仕事も同時期ぐらいに就職したので同じぐらいのキャリアがありました。当時は何かからやっただいのかかわからず、「まだまだ日経平均株価は上昇しますよ。」という言葉信じ投信を買ったり、雑誌に「お勧め銘柄！これであなたもお金持ち！」みたいな銘柄を買ってみたい。市場全体が低迷していたということもありますが、日々の株価の値動きが気になり、昼の仕事すら集中できなくなるほどの精神状態になるときもありました。短期トレード、デイトレード、それに関するセミナーにいろいろ参加しましたが、日々の値動きに翻弄されることはわかりませんでした。利益は出てたと思います。しかし、それ以上に心にかかるストレスに耐えられなくなり、市場から退

場しようと思ったことも何回もありました。

しかし、たまたま板倉雄一郎事務所の存在を知り、合宿セミナーに参加することにしました。今まで参加した勉強会みたいにお持ち帰り銘柄の発表や、チャート分析はまったくなく、そのかわりお金の考え方や、ファイナンスの基礎など今まで考えたこともない知識を得ることができました。また会場も「利益！儲ける！」というギラギラした感じもなく、とても心地よい空気感を感じ、時間を忘れて聞き入ってしまいました。やばいぐらい頭をフル回転させましたが、支払った価格以上の素晴らしい価値を得ることができました。

それからというもの日々の値動きはほぼ気にならなくなり、損をすることはなくなりました。(価値<価格である企業に投資をしないという行動を徹底することで)また、今手元にある期限フリーの資金を差し出す代わりに、支払った価格以上の価値を手に入れる努力をコツコツ続けること自体が楽しく、それに対する心のストレスはほとんどなくなったと言ってもいいと思います。また企業価値評価をすることで社会の仕組みや、いろいろなビジネスモデルの把握、どのように経済は回っていくのかなど幅の広い知識を得ることも可能になりました。また、イベントや懇親会などでいろいろな卒業生と出会うチャンスがあり、個人的に飲みに行ったり、夢を話し合ったり、お金には替えられない人との出会いを得ることができました。昼間のサラリーマン業で出会う人とは違い、とても楽しそうに生きている人が多く、その空気感を感じているだけでも楽しくてしかたありません。こんなコミュニティーは今まで見たことも参加したこともありませんでした。今は、何人かと気のあった人といろいろ話し合い、自分らの強みで起業し、社会に対して価値提供できないのかと検討中でもあります。

日々の値動きに翻弄され、昼の仕事に支障が出るくらいストレスを感じて株式投資を続ける。利益だけを追い求めて、ギャンブルと変わらないようなことを長年続けていた私。それが今では企業価値評価を行い、支払った価格以上の価値を交換する事をホイホイと続ける。昼の仕事も集中でき、自由な時間で楽しい企業価値評価。また卒業生との楽しいコミュニティー。こんなに変化するとは自分でも思いませんでした。

人はひたすら一所懸命努力し、その努力した過去を分析して現在の意思決定をしていると思います。そして素晴らしい未来を作っていく。日々楽しくそして後悔のしないような生き方ができるようになったのもセミナーの効果でもあると思います。

「実践・企業価値評価シリーズ」合宿セミナー受講後の感想など

Akkiさん（男性）

初受講： 2005年2月（3期）

再受講回数： 2回

受講したきっかけ

もともとこのセミナーを知るきっかけとなったのは、個人の趣味で行っていた株式投資関連で、板倉雄一郎さんのホームページを訪れていたことにあります。

その際にセミナーを開始するとのメッセージを読ませていただいた訳ですが、今となっては失礼な話ですが、当時はこういうセミナーに大きな需要があるとは思えなかったため（専門的&2日で約20万円という価格設定）、板倉さんの気が変わらない内に(笑)受講しておかねばと思い、急いで申し込んだ記憶があります。

このセミナーを受講して良かった点

良かった点は、何よりも企業価値というものを自分の手で真っ当に評価することができるようになったことです。

いままでは数字などあまり気にしない感覚的な評価しかしてきませんでした。セミナー受講後は、財務諸表をしっかりと読み、そこから見えてくる企業の姿、企業の価値を思い浮かべることができるようになりました。

そうなってくると不思議なことに、最初はお金儲けのために受講したのですが、だんだんとお金では買えないもの、本当に価値のあるもの、つまり「人」というものに非常に興味を持つようになりました。やはり「企業は人なり」ということでしょうか。

それと受講後の株式投資の実績についてですが、具体的な数字は書きませんが、十分に利益を上げさせてもらっています(笑)。ただ感覚的には、「儲かるなぁ」というよりは「損しなくなったなぁ」といった感じです。

「企業価値評価セミナー受講後の効用」

ホンコンさん (男性)

初受講: 2005年2月(3期)

再受講回数: 15回以上

ブログ: <http://www.hosonism.com>

まず、私が板倉雄一郎事務所主催の企業価値評価セミナーに参加した動機は、株式投資、企業活動への興味からであり、受講前からファンダメンタルズ分析に関する書籍を読みあさっていました。

あの当時(と言ってもわずか二年半ほど前)はインターネットで「企業価値評価」というキーワードで検索してもヒットするページは少なく、唯一見つけたのが「板倉雄一郎事務所」でした。

板倉氏が毎日更新するブログを読んでいく中で「セミナーを開催する」との告知を発見し、受講を即断しました。ただ、当時は私自身スケジュールの調整ができず結局「第三回目」にやっと受講することができました。

申し込み後、内容を考えると「二日間は短いのでは?」と感じました。というのもそれまでに学習した時間、量を考えると(しかも多くの疑問を残したままでした)「そんな短時間で教えられるのか?」と疑問でした。でも、受講してみてそんな不安は全く意味がなかったことに驚きました。通常、同様の内容を大学や大学院で学ぼうとした場合、最低でも20回程度の講義、そして延べ30時間以上はかかります。でもこのセミナーではそれらの内容をわずか「二日間」に凝縮して過不足無く教えていました。これにはただただ驚くしかなかったです。

受講後は知識のブラッシュアップを目的にほぼ毎回再受講しています。再受講の回数を重ねるにつれこのセミナーのもう一つの価値に「参加した人々」があることに気づきました。参加者全員「ファイナンス」という共通言語を持ち、上昇志向の人たち(セミナー受講生の意識レベルの高さは本当に凄いです)に会うたび交わされる議論は日常生活では決して経験することのない刺激的な内容です。

また、それ以外にも公私ともに勉強会やイベントなども各自が開催しセミナー以外の場でも「旧知の友」のような人間関係も生まれています。

受講後二年が経過し、振り返ると生涯使える知識とかけがえのない仲間たちに出会うことができたセミナーであり、いまでは他に例を見ない「コミュニティー」として成長していると思います。今はこの

経験が生涯の「宝」であることを確信しています。

「経済的自由が見えた！」

T.Sさん (男性)

初受講： 2005年6月(6期)

再受講回数： 3回

元々板倉雄一郎さんを知ったのは1996年頃、まだ14.4K程度のモデムでインターネットに繋いでいた頃だった。当時いつも見ていたNTTのホームページに、インターネット関連の最新ニュースがリンクされており、当時は「どこの会社がホームページを立ち上げました」なんていうのも日々のニュースになっていた。

そんなある日、ハイパーネットのビジネスモデルが紹介されているニュース記事に辿り着き、ものすごい衝撃を受けたのを覚えている。何かそういうビジネスをやりたいと漠然と考えていたので、これは天才的なアイデアだという感じを受けた。その後ハイパーネットは倒産し、その一部始終を記した「社長失格」が出版される訳だが、本屋で見つけるなり即それを買って、一気に読んだ。読み終わって、やはり自分も同じようなことをやりたい、経験してみたいとさらに強く思うようになり、結果的にそのミニチュア版のようなものを作るようになった。

1999年～2000年にかけてのITベンチャーバブルに乗って、順調に器を整え、上場実務経験者や会計士、その事業分野のプロといった頭のいい一流スタッフを揃え、上場事業会社やベンチャーキャピタルから資金を調達し・・・と体裁だけは整ったのだが、フタを開けてみれば事業の方はさっぱり。事業の失敗まで板倉さんに追随するつもりはなかったのだが、結局その会社も活動を停止することになった。

その間に起業家の大先輩としての板倉さんのところに、何度か押しかけて行って、色々相談させてもらったりしたのが最初にお会いしたきっかけだった。

事業失敗の後、何もせずに「ぼーっと考える時間」を設けた。株式投資でもしながら、のんびりと暮らしていければいいなと漫然と考えながら、日々金融関係、投資関係、マーケット関係の本を読み漁り始めていた。サラリーマンをやっている人より十分な時間があったので、それなりに勉強の成果も出て、アービトラージを中心とした手法で十分な生計+資産増加ができるような状況にはなった。その状況にある程度満足はしていたが、日々もっといい投資手法はないかと貪欲に勉強はしていたし、自分の知らない新たな手法を求めていた。

ちょうどその頃「朝まで生TV」に出ている板倉さんを見かけて、また衝撃を受けることになった。TVでも相変わらず切れのある、頭脳回転数の早い発言をされているなと思ったが、それ以上に衝撃を受けたのは、TVで何度も紹介されていた「プログ」だった。「朝生」を見た翌日から、プログを読み

始めたが、その内容の鋭さと深さに驚き、大きな衝撃を受けるとともに、これまた一気に読みつくした。タイミング的にも「これこそ自分が求めていた『本質的投資』の世界だ!」と思った。

きっかけ部分が長くなったが、そういういきさつで2005年6月に第6期のセミナーに参加した。セミナー費用に関しては、最初から高いなんて感覚はまるでなく、得られる知識の価値からすると、些細なものだと受講前から思っていたし、現在では更にその思いは強くなるばかりである。例えばマッキンゼーの「企業価値評価」を独力で勉強するより、さらにお金と時間をかけて「ビジネススクール」に通うより、最も低コストかつ短時間で、「金融」、「経済」、「株式投資」、「資本主義」の本質を学び、理解することができる貴重な機会だと思う。恥ずかしいことに、自分はベンチャー立上げを経験した割には、会計・財務系には弱く、最初は理解するのに必死だった。しかしその後再受講を3回ほど受けたことにより、その度に理解の度合いは深まっていった。この再受講を含むサポートシステムがあるため、特別頭のイイ人でなくても、また会計の知識があまりなくてもきちんと理解できる、非常によく練られた素晴らしいカリキュラムであると思う。

自分がこのセミナーを受講した主な効果として、以下に3つ列挙する。

1. チンブンカンブンだった「パフェットからの手紙」が理解できるようになった。

すなわち世界一の投資家の理念と哲学を理解し、自分でも実践できる可能性が開けた。

元々パフェットには興味はあった。しかし「いい会社の株を買ったら利確せず保有し続ける」、「分散投資ではなく、いい会社に集中投資する」といったパフェットのやり方が、不可解かつ駄目っぽく見えていた。セミナーを受講してその意味するところが理解できた。上記に限らず、「手紙」に書かれているもっと深い、細かい内容も十分理解できるようになった。要するにこれまでは、会社、株式の本来の価値を把握することは不可能だと諦めていたのが、そうではなく把握可能だということが判った。そしてパフェット流の投資スタイルは、株式市場ではなく、資本主義の原理・原則(人の手による価値創造)に根ざしているものだということが理解できた。

2. 世の中のインチキが見抜けるようになった。

株式市場、証券会社、上場会社、経営者、経済学者、TV・新聞。これまでもある程度はこれらの中にインチキが存在するとは薄々理解していたつもりではあるが、彼らのインチキを具体的かつ理論的に見抜けるようになった。解っていてインチキをする人は論外だが、無知が原因で結果的にインチキをしてしまっている人が、この世には数多く存在することに驚いた。世の中はうんざりするぐらいインチキで成り立っておりその事実には愕然とするが、逆にインチキを見破り、本質を理解できる人間にとっては、インチキを避けて富を築くことはそう難しくないことだと思える。

3. 素晴らしいコミュニティに参加できる。

事務所のスタッフは板倉さんはじめ、橋口さん、その他多くの方が「本物」である。

皆さんそれぞれ非常に深く考え、非常に深く学び、非常に深く実践経験を積んでおられる。自分はこのまでの仕事において、一般的に「エリート」と呼ばれる人たちと数多く仕事をしてきた。しかしその中でも本物と言える人にはあまり出会ったことがない。学歴や肩書きがあっても、あまり優秀でない人も結構いる。しかし、ここのメンバーは本当にレベルが高く、いわゆる「切れる」人が多い。トップが本物だからこそ、同様のメンバーが集まってくるのだろう。単にセミナーに参加しただけの一凡人である自分が、そういう人たちと気軽に話や相談ができ、気軽に飲んで大騒ぎができるのはすごく貴重なことだと思うし、刺激にもなる。さらにそのセミナーを受講しに集まってくる人たちも、多くは志が高く、魅力的な人たちばかりだ。そういう人たちと出会い、交流できるのも、セミナーに参加する上での大きな価値となっている。

要するに結論として、このセミナーから得られた知識により、大袈裟な言い方をすれば、「この先の人生における経済的自由が見えた」ということである。つまり会社や上司、お金や時間に一生縛られることなく、自由に気の向くまま生きていけるという自信がつき、なおかつそれは他人のお金を(合法・違法にかかわらず)奪うものでなく、ささやかでも社会に対する価値提供を行いながらそうした人生を送れるというものである。

そういう訳で、より多くの「志の高い方」に、このセミナーをお奨めしたいと心から思う。このセミナーの価格と価値について、個人的な考えとしては比較の対象ですらないと思う。まあ「経済的自由」が見えるくらいなので、それだけ桁外れに価値の方が勝っていることは明白である。最後にこのセミナーをお奨めできない人について書きたい。板倉さんのブログに「株式投資の心得 DVD 予約開始！」のお知らせがある。

<http://www.yuichiro-itakura.com/archives/2006/08/01-1215.html>

ここで書かれている「この DVD を絶対に観て欲しくない」に該当する人は、同様にセミナーにも参加する意義はないと思われるので、そういった方にはお奨めできない内容となっている。

「...そして、もっとファイナンスを学びたい」

KYさん（男性）

初受講： 2006年4月（14期）

再受講回数： 1回

どういきっかけで受講したか

株式投資をしていてPERなどの指標を見ながら割安と言われている銘柄を探し投資をしていました。しかし、本当にこれが割安なのか？ 実際価格が上がっていくものの中にはPERが低いと言われるものばかりでなく、100倍を超えるものがさらに上昇していくかと思えば、割安と言われているものがさらに割安に？ なる。投資先の選別法が全く解らなくなって行きました。

そんな時、たまたまサンデープロジェクトに出演している板倉さんを拝見しました。そして、板倉さんのサイトに辿り着く事ができエッセーを読む機会に恵まれて、この合宿セミナーに行けば、現状の疑問が解決するのではないだろうかと思い、「おりおばセミナー」参加後、「合宿セミナー」に参加させて頂きました。

このセミナーを受講して良かった点は何か

当初自分が求めていた投資先の選別法を教えることが出来た事、以上の事が得られてとても良かったです。

受講して何が変わったか

受講してみて変わった事、それは、以前までとは考え方が変わったような気がします。受講前は、ただ儲かる「銘柄」はどれか。これだけでしたが、受講後は、違う事にも興味が沸いてきました。

例えば、“優良企業”・“増収増益”という噂が聞こえてきて、ある会社の名前が目に留まった時、「その会社って、本当に優良なんだろうか？」と言う疑問が沸いてきた事。さらに、その企業について、自分で過去の数字から現時点までの“それ”を確認できるようになった事。

“投資家から見て”と言う観点でなんて考えたことがなかった訳ですし、残念ながら、

その術を知らなかったのですから。

さらに言えば、その解っていない事自体に全く気付いていなかった。つまり、自分自身、理解できていない事が理解できていなかったんですね。

とは言え、受講してみて、それらの事がすっきり解決したようなのに新たな難問にぶつかってしまいました。“将来業績予測”なんていう新たな難問が出現してしまったという感じです。まあ、でも受講前の状態を考えれば、この新たな難問は、嬉しい悲鳴という感じはありますが、受講していなければ、いつまで経っても“投資家から見て”と言う観点には辿り着けなかったのでしょうか…。

ただ一つ“弊害？”としてあげるとすれば、「マネー雑誌」等を楽しむ事が出来なくなった事でしょう。以前は、見ると、自分も儲かったような気分を味わっていたような気もしますし、まあ、全く意味がないのですが(苦笑)投資をする上で、自分が知りたいなあと思っている事とは載っていないのですから。解ることと言えば、コメントしている人たち、証券会社のアナリストや評論家？が本当に無知なのか、非常に性格が悪いのか、どっちかという事でしょうか。あれで「ギャラ」を得ているなんて非常に不愉快ですよ。

とにかく、受講してみて良かったと思っています。もっと早く受講すれば良かったと。「どうしたら企業経営は良くなるのだろう」等と、今まで考えもしなかった事を考える機会を得られた事が、現時点での大きなポイントの一つかなと思っています。これからももっとその先を理解したいと思いました。

「企業評価セミナーを受講して」

Y.Kさん (男性)

初受講: 2006年2月(12期)

再受講回数: ?回

私が板倉雄一郎事務所のWEBサイトを訪れたきっかけは、板倉雄一郎氏の著書「社長失格」でした。当時私は起業を考えていたときで、「社長失格」を何度も読み返して自分の未来をイメージ(妄想?)していました。

その後、ソフトウェア開発会社を起業し順調に5年が経過したころ、ふとあの「自己破産をした板倉雄一郎氏」は今何をしているのだろう、と気になり検索したところ板倉雄一郎事務所のWEBサイトを発見したのです。そこに書いてある内容はとても興味深いもので過去の記事を全て読むようになりました。そして、それがきっかけで大学院での授業もマーケティングや戦略論中心だったのがファイナンスの授業の比率が多くなっていきました。

それまで株式投資はほとんどしていなかった私でしたが、企業評価セミナーを受講した理由は、起業を夢見た頃に憧れていた板倉雄一郎を実際に見てみようという単純な理由でした。大学院で一通りファイナンスの勉強をしていたこともあり、失礼ながら講義のほうはそれほど期待していたわけではなかったです。

しかし2006年2月に実際に受講してみると講師陣の質の高さと、セミナーの完成度にびっくりしてしまいました。このセミナーがきっかけで株式投資に興味を持つようになりました。財務諸表を読み解くために簿記1級を受験したり、ファイナンスの授業をもう一度受講しなおすなど、セミナー後の興味の対象は「投資」に完全に傾く事になりました。

現在、個別株への投資はほとんど行っていませんが、セミナーで受けた刺激をもとに自分なりの投資手法を実践し、収益をあげられるようになりました。このように「投資」への道のきっかけとなった企業評価セミナーに大変感謝しております。

「セミナーの効果について」

A.Oさん (女性)

初受講: 2006年11月 (21期)

再受講回数: 1回

私が受講したきっかけは、友人がセミナーを受講していて、勧められたからです。もともと株式投資にはそれほど興味がなかったのですが、その友人は私がとても信頼している人なので、あまり迷うことなく、しかも予備知識ほとんどなくいきなりH18年11月の合宿セミナーに参加しました。

参加している方の多くはかなり迷われて、決心して参加する方が多いようなので、私のようにあまり迷うことなく参加するのは珍しいと思います。

勢いで参加した合宿セミナーはとても楽しかったです。当初は投資目的ではなかったのですが、受講後、株式や経済に興味を持つようになりました。特に「時間の経過によって価値が増大するものに投資する。」という言葉は、日常生活を送る上でよく思い返しています。

近々再受講を受ける予定です。初受講の時はわからなかったことがわかるようになるといいなあと思っています。とても楽しみです。

イタクラセミナーを受講して一番よかったことは、自分は社会のためになにができるのか、なにをしなければならぬのかと改めて考えるきっかけをもらったことです。お金は知識と知恵があって、社会のために有益に使える人に集まっていくのだと確信しました。

知識や経験は生きている限り自分を支え、守ってくれるものだと思うので、消費のために25万使うことなくセミナーを受講して本当に良かったと思います。ありがとうございました。

「刺激と学びのきっかけ、良き仲間との出会い」

KIさん (男性)

初受講: 2005年3月(4期)

再受講回数: 7回

私は、書籍を通じて板さんを知り、板倉雄一郎という人間に興味があり受講しました。

受講前は、株式投資という『安く買って、高く売ること』に興味が行きがちで、短期的な面ばかりに目がいくような状態だったと思います。しかし、お金というものに対する哲学や経営者板倉雄一郎としての姿勢や生きざまのようなものに触れ、非常に啓発されました、今は、この刺激に感謝しています。

実際に株式を購入すると、企業だけでなく日本経済の行方や世界の巨大マネー動向が気になり、政治なども含めて社会に広くアンテナを伸ばすようになりました。

(職業柄、非常に視野の狭い環境にいたのかもしれませんが。。。)

しかも、株式投資をすることで投資に関する知識が豊富になればなるほど、経済的利益に留まらず、経済の仕組みを学ぶことを楽しみながら、世界経済において巨額資金が高い利回りを求めて国境をまたいで移動することで、世界経済が影響を受け株価が決定していることなど理解ができるようになりました。

また、板倉さんのセミナーで話題になる、

パフェットの投資哲学

- 1) 損をしないこと
- 2) 第一のルールを忘れないこと

や「怠惰にしていられないことが、常に投資スタイルの基本であるべきだ」といっている意味が理解できました。

つまり、投資家は常に学び、考え、決断をしなければならないということです。

パフェットの投資原則

- ・自分のもっているものを知る
- ・買う前に入念に調査する
- ・株ではなく事業を所有する
- ・一生の間に投資は20回までとする
- ・所有すると決めたら、長期間持ち続ける。

この投資原則も良くできているなぁとやっと思えるようになりました。

セミナーでエクセルを用いて、Discounted Cash Flow 法について手を動かして体験したことで、有価証券報告書を見てある程度どういう企業なのかがわかるようになります。これに加えて俯瞰的な考え方ができるようになったことで、時価総額に対して上場関係会社時価総額持分と投資有価証券と内部保有分がほぼ同じで、正味の時価総額は？といった企業や、正味の時価総額がマイナスというありえない状態の企業があることなど不可思議なことがおきていることなどにも気づけるようになり、自分の成長が感じられた2年間でした。

また橋口寛さんのパートナーシップに対する考え方や人柄からさまざまなことを学ばせていただきました。これからも、セミナーで知り合った多くの方々とこれからも良いお付き合いをさせていただければ幸いです。

また、このセミナーで学んだみなさんのご活躍と、このコミュニティのリーダーである板さんが体をご自愛していただけることを希望いたします。

「板倉でい～えぬえ～」

ミナ男さん (男性)

初受講: 2006年9月(19期)

再受講回数: 0回

約2年前、どういう経緯で辿り着いたか覚えていないが、板倉雄一郎事務所のHPを偶然見つけた。当時、ファイナンスの“フ”の字ぐらいしか分からず、バリュエーションの“ヨ”の字すら知らなかった僕にとって、板倉雄一郎事務所のHPを毎日見ることは非常に勉強になった。しかし、いくつかの疑問が生まれた。なぜ、このおっさんはシコシコと毎日のようにHPを更新するのか？なぜ、このおっさんはこのような有益な知識を不特定多数の人々に無償提供するのか？誰にも教えなければ、おっさんだけが儲かるのに？なぜ、このおっ……(失礼しました。実際の板倉さんはしぶいグレイヘアのオシャレなおじ様でした。年の割にはとても若くてビックリしました。板倉さんと同じ年の僕の知り合いの教授は金正日みたいなので)。

いくつかの疑問は毎日更新されるHPから答えを得ることができた。そして、一度も会ったことがないにもかかわらず、板倉さんは信用できる人だと思った。日々更新されるHPの内容から、板倉雄一郎という人物がイメージできたからだ。頭が良く、物事の本質を理解することができ、正義感が強く、信用力がある、そして僕と同じように下ネタがとても大好きなのだ。僕と同じように女の子がとても大好きなのだ。そんな板倉さんに会いたい、そしてバリュエーションを学びたいと思い、セミナーに参加することを決意した。

正直、セミナー参加を決意するまでとても迷った。いくつか問題点があったからだ。セミナー費用として総資産の三分之一が失われてもいいのか(そもそも総資産がとても少ないですね)、ノートパソコンを持ってないのでどうしようか、ちゃんと会場まで辿り着けるのか(東京にはあまり行った事がない)、MBAホルダーや外資系証券マン、会計士のような人達が参加するようなセミナーについていけるのか(これを理由に及び腰になる人は多いと思う)。

しかし、全ての問題は解決した。セミナー費用は、自分に対する投資だと考えればよい。ノートパソコンは女の子から借りればよい(セミナーでレンタルもできる)。ついでに、その女の子を東京のデートに誘えば会場まで迷うことはない。セミナー当日は一人で買い物に行かせよう。そして、セミナーについていけるようしっかり予習をすればよい。それに、理解できなければ再受講もできる。

全ての問題が解決した僕は、去年の9月に初受講した。なぜ9月かというと大学の夏休みだから

だ。同じような理由からだろうか、19期のセミナーは若い人が多かったらしい。(8月は、学生と同じように板倉さんも夏休みだったらしくセミナーはなかった)。再受講は予定が合わずまだしていない。しかし、今年から東京で働くことになったのでガンガン再受講して、卒業生の皆さんと交流を深められたらと思う。

セミナーが始まる前は、とても緊張した。毎日 HP で見ている、そして、テレビでも見たことのあるおっさんが目の前に居るからだ。とても不思議な感じだった。そして、会場の楽しい雰囲気からだろうか、緊張はいつの間にか消えていた。板倉さんをはじめ、パートナーの皆さんは、とても良いネタを持っていてとても面白かった。ツボに入ったのは橋口さんだった。橋口さんのネタを聞けると言うだけで、再受講するのがとても待ち遠しくなる(ハードル上げてすみません)。

受講して変わった点は、バリュエーションができるようになったことである。企業の価値がある程度分かるだけでも、投資をする上では非常に安心できる。

もう一つ変わった点は、何事も自分の頭で考えるようになったことである。以前に比べ少しは物事の本質が分かるようになったと思う。

僕は、どんな先生や、どんな本よりも、板倉さんから多くの大事なことを学んだ。板倉雄一郎事務所の HP を偶然見つけることができた奇跡に感謝。パートナーの皆さんに感謝。そして、板倉雄一郎氏に感謝。板倉さんには子供がいないけど、600 人もの卒業生が板倉 DNA を引き継いでいると僕は思う。

「企業価値評価セミナーを受講して、今思うこと」

A.Nさん (男性)

初受講: 2006年5月(15期)

再受講回数: 0回

私が企業価値評価セミナーを受講したのは運命だったのかなあ、と思うことがあります。

高校では理系にしながら数学では0点ばかりで、大学受験間際に文転したにもかかわらず就職した製造会社で決まった配属先が経理。「なんで??」と思いました。

毎日苦手な数字と格闘しつつ、10数年経過した05年12月、板倉さんの著書「社長失格」を読んだのがきっかけで板倉さんのホームページを拝見させていただくことになりました。

ちょうどそのころ勤務先が売却されることになり、我が社がいくらで売却できるのか算出する、いわゆる企業価値を算出する仕事に携わることとなりました。

向こう5年間の損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書を作成し、その後企業価値評価の専門家にそれら財務諸表を渡したところ、当社の企業価値がDCF法で算出されてきました。「DCF法って何だ?」「将来発生するキャッシュフローを現在価値に割引くって?」説明を聞いてもわかったような、わからないような感じでした。

そして、ふと思い出したのです。「おりおばセミナーがある。」

早速06年2月のおりおばセミナーに参加したところ、企業価値について更に詳しく知りたいと思い、06年5月開催の合宿セミナーに参加することになりました。

もし、会社で経理に配属されず、企業価値を算出する仕事に携わることがなければセミナーには参加してなかったでしょう。

受講して良かった点。変わったこと。

企業価値評価についての基本的な知識が身についたこと。(そう思いたい)

更に理解を深化させ、様々な企業の価値を評価してみたいと思うようになりました。

また、板倉さん、事務所の皆様、卒業生の皆様とのコミュニティに参加する資格を得たことです。つながりができました。(そう思いたい)

皆様意識レベルが相当高いので対等にお話しすることは困難ですが、皆様が発信する情報を享受することによって、そこからたくさん気づき、考え方などを得ること

ができました。私の意識レベルも少々上がったような気がします。(気だけかも)

企業価値評価についてはまだまだ不勉強なところがあるのでもう少し自分なりに理解してから再受講に臨みたいと思います。
今後ともよろしく願います。

「ファイナンスを学んだはずが、生き方を学んでしまった」

松岡聡さん

初受講： 2006年10月(20期)

再受講回数： 1回

私が板倉雄一郎事務所の「企業価値評価セミナー」を受講したのは2006年10月7、8日に行われた第20回でした。

学生時代に、「社長失格」を読み、以降、板倉さんの書籍は出版されると同時に購入し、WEB システムの開発を生業としている(つまり仕事にネットサーフィンをしていることが多かった。)私が、板倉さんのWEBを見つけたのは自然の成り行きでした。そのWEB中で、セミナーが行われていることを知り、いつか受講しようとは思っていました。しかし、私が暮らしているのは長野県のド田舎。セミナーはたった2日間ではありますが、会場までの移動で電車を使い、始発で行ったら間に合わない。セミナーの終了後は、その日に帰る電車が無い。となると、実際は4日間かかる計算になり、なかなか日程が取れないということを「セミナー参加」という行動を取れない自分の言い訳にしていました。本当はそんなに必要としていなかったのかもしれませんが、今考えると、「セミナーの価格 > セミナーの価値」だったのです。

第20回の案内がWEBに載ったときに、今回、行こう!と決めました。きっかけは二つありました。「もしかしてやった者勝ち?」とふと思ったこと、20代はさまざまな経験をするということを重視してお金に拘ることをせず仕事をしていたのですが、「自分がいかにどの価値を提供できているのだろうか?」と悩んでいた時期だったので、その疑問の答えを見つけたいと思ったことです。このとき、セミナーの価格 < = セミナーの価値に変わりました。

セミナーに参加することを決めて、板倉さんのblogを何度も読み返しました。(仕事に読んでいたことは内緒です。笑)ファイナンスに関して、少しは理解したつもりでした。しかし、参加してみると、全く理解できていないことがわかりました。正直に言いますと、一回目の受講では、板倉さんやパートナーの方が仰っていることがほとんど理解できませんでした。再受講は初回受講の1ヵ月後、2006年11月3、4日に行われた第21回のセミナーだったのですが、このとき、なぜか理解できたのです。これが、「板倉雄一郎事務所の企業価値評価セミナー」のマジックだと思います。

セミナーを受講した後は、ファイナンスの書籍が読めるようになりました。セミナーの受講前は、読んでいたつもりだということがわかっただけでも、かなりの価値がありました。間違った理解では、何の役にも立ちませんし。

また、何かを購入するときに、価格ほどに自分にとっての価値があるのかどうかを考えるようになっていました。そのせいで、お店にいる時間が延びてしまいましたが、その時間で自分が生み出せる価値はいくらだろうと考えながら、迷うのもなかなか楽しいものです。

私がセミナーで教わったことは、実はこれだけではないのです。板倉雄一郎事務所のセミナーでは、社会の中での自分のポジションの取り方を確認する手段を手に入れることができるのです。セミナー受講後、自分の今のポジションが間違っていたなら、セミナーで学んだ手段を使って、正しいポジションを取ればいい。もちろん、正しいポジションにいるのなら、そのポジションを維持しながら、進めばいい。自分のポジションさえ間違わなければ、周りの環境に左右されず、不安になることもなく、自分のやりたいことをやられていくのです。つまり、自分のポジションを確認する手段を持てば、自分の思うとおりの人生が送れるのだと私は思います。セミナーではバリュエーションを通して企業の理論株価の算出方法を学びます。妥当な株価がわかれば、どんなに株価が下がっても安心していられます。人生でも全く同じなのだと思います。現在の自分の妥当な価格がわかれば、安心して未来への行動が取れると思うのです。

ファイナンスを学びに行ったつもりが、生き方を学び(もちろんファイナンスも)、2日間で義務教育9年間より学ぶことが多かったセミナーです。ただ、長野県のド田舎に戻ってくると、なんとなく時間がゆっくり流れているようで、少し物足りず、やはりセミナー中のエネルギーはものすごく、人が同じ目的で集まると、ものすごいエネルギーが生まれているのですね。この物足りなさを自ら解消していかなければいけないと感じながら生活している毎日です。

「うどんで有名な地域からセミナーへ」

S.Kさん (男性)

初受講: 2005年9月(8期)

再受講回数: ?回

きっかけ

もう7、8年前でしょうか？正確には何年前か忘れましたが、テレビで通信関係の事業を起し大きな負債をかぶった人の特集のようなものを見たのを覚えています。

その番組内で、その人は、ピシッとキメた背広姿で、イタリアマフィアのような頭(べっとりオールバック)で、椅子に座って足を組み、モニターに向かって何か解説していた映像と、マンションでサラサラ真ん中分けヘアで、ノートパソコンをさびしそうにイジっていた場面、これは、自分の頭の中で映像として残っていました、正確にはどのような番組だったか覚えていませんが、キーワードは成功と失敗というような感覚で頭の中に残っています。

その後、まっ～まっ～時が流れたと思います、アマゾンで「社長失格」と言う本を発見、解説文を読みながら感覚的に「あのテレビの人ちゃうやろか？たぶんそうや！」と思いました。その何ヵ月後に「社長失格」を購入し、本をじっくり読みました。そして、その本の最後に板倉さんのホームページアドレスが書いてあったので、ブラウザに URL を打ち込んで見たものの、そのホームページ自体がありませんでしたので、*板倉雄一郎*で検索すると、板倉さんホームページを発見しました。それからは、板倉さんのエッセーを定期で読んでいました。

エッセーを読み始めて約1年以上経ったでしょうか、定期で読んでいるエッセーの内容が段々と難しくなってきました。そしてある日、企業価値なんやら始動と、板倉さんのエッセーで書いてました。初めの印象としては、「なんやそれ！」という感じでしたが、エッセーを読んでもうちに意味が少しずつわかってきたように思います。

そして、ある日、二十歳前半で失敗に終わった株式投資、なんで自分は失敗したのかわかりました。

「そうや、値段や、価格や、価値や、会社の値段がわからんから失敗したんや！」こんな感じで思ったように思います。

そしてセミナーの3回目あたりから、絶対受講しようと思いましたが、「さてよ、いきなりセミナーに行くと意味が理解できるんか？」と、思いそれから関係書籍を読み漁り、わからない事を埋めて行く日々でしたが、ある日勉強していて「もう無理や！これ以上はわからんわ！」ということで、8回目セミナーに受講することにしました。セミナーを受けているときの心境は「そうか～、なんや！そういうことやったか～！。あのアルファベットそういうふうに発音するんやな～、ノプラット！」「なるほど、割引率の削り方はそうやるんか、でも、よく考えたらその通りや会社ってそういう事や！現実を見ん

といかん！」こんな感じのことを思いながら受講してました。

受講後は復習の日々、映画館に行っても「同じ価格やけど座る席によって価値がちゃうやん！」など、実生活でも乖離を探そうになりました。パソコンのページは EDINET とエクセルシート。* パフェットからの手紙 * を読みながら「そや！おっちゃんの言う通りや！」と感心するなど、こんな日々を経て復習のために、15 回目セミナー初の再受講、みんなが集まって板倉さんを囲って立ち話している会話の中に、板倉さんが「バリュエーションシートは計算機」と言っていました、その言葉で確信がもてました。本質を理解する事が大事なんだと。

セミナーを受けてよかった点は、得た知識で今では、経営していかなければいけない会社をどう効率よく運営していくか、バリューアプローチを日々考えて実行しています。やっと春先から実行する新規事業についても計画段階で、およそ価値計算をし、利回りを考えて実行する事が出来てます。市場で買い付けるビジネスも、自分のビジネスも実はいっしょだと思えるようになりました。

後は、我が家の財務省にあたる貯金マニアの妻に、価値と価格の話を、本人にわかる言葉で1年以上に渡り説明。

妻と俺、対談風景

俺「銀行にお金を預け取るとちゃうで、債券を買ってるだけやで、通帳はな！あれは額面がいつでも換えれる商品の証書なんじゃ！あほか！」

妻「株はギャンブルやろ！そんなモンに家のお金はださんで！あんたアホやろ！」

俺「俺はパチンコとか競馬が嫌いなの知っとるやろ、あれはな、権利証書や！」

カブって言うな、ばくち打ちみたいで嫌なんじゃ！」

妻「あんたの小遣いでしたらええやん、」

俺「なんべんゆーたらわかるんや！お前のパスポート売ったるか！」

こんな感じから始まり、半年前にしぶしぶ妻は自分名義で特定口座開設、私が薦めた証券を買いました。今では、妻名義のその口座は、約 2 割ほど資産価格増になっています。

今月からは、毎月の収入から貯金にまわるはずのお金、約 3 割ほどが特定口座に入っていく予定です。この件については妻に知識を与えながら、あきらめずがんばりたいと考えています。

後、自分の中で変わった事は、以前は何をやっているのかわからない、でもがんばらなければいけないという焦りがあって非常にどうにもならない苦しさがありました、ですが、最近は何を基準にすればいいか、自分の価値観に基づいて、もっとがんばろう！という焦りに変わりました。簡単に言うと、どうにもならない苦しさは少し解消されて、心に余裕が出来たように感じます。これは非常に大きな収穫でした。

へたくそな文章で申し訳ないですが、以上です。

「企業価値評価セミナーを受講して」

大野 武男さん

初受講： 2006年3月(13期)

再受講回数： 1回

板倉さんを初めて知ったのは、ライブドアとフジテレビのニッポン放送株を巡る抗争について朝まで生テレビで取り上げた際、板倉さんがパネリストとして参加したのを見た時でした。板倉さんが番組の後半で自分の過去の失敗について話し、失敗からいかに学ぶべきかを聞いた時に、感動し、板倉さんに興味を持ち企業価値評価セミナーの存在を知りました。しかし、セミナーに参加したのはその1年後。去年の3月でした。板倉さんのブログを毎日読みながら、このセミナーに参加したいと切望していましたが、札幌在住と学生という立場から20万円という価格が重く押し掛かり、具体的なアクションを起こせなかったのです。時間が経つにつれ、板倉さんのブログに書かれている経済的なトピックスや価値と価格の交換について学び、特にディスカウントキャッシュフローを知った時には、世の中にこんな考え方があったのかと衝撃を受けました。

初受講の時はもう必死で何が何でも吸収してやろと思ひ、テレビや書籍の存在であったあの板倉雄一郎が目の前にいて講義をしているんだという感動もあり、全身全霊をかけて耳を傾けていたのを覚えています。あの時の自分の集中力は大学の講義では後にも先にも発揮された試しがなく、おかげさまでセミナー2日目のワークショップの時間には頭が全く回らず、ただ会場の熱気の中で呆然としていました。セミナー受講はただただ、自分には知らないこと、わからないことだらけだと実感し、また世の中には様々な人たちがいて、そういう方々と知り合えることは非常に面白く、刺激的で、素晴らしいことなんだと気付いたことです。特に今でも心に強く残っている言葉があります。その日の打ち上げは石野さんの誕生日祝いもありました。その時の石野さんのスピーチで年齢を聞き、実際よりずっと若く見えるなと思ひ、そういえばセミナー講師の方々は誰も若く見えるし楽しそうでした。そういった内容を隣りに居た吉原さんに話すと、「自分の時間を自分のために使っている人はそうじゃない人よりも若く見える」と仰ってくれたことを事あるごとに思い出します。そんな人になりたい。そうなれば人生を楽しむことができるし、楽しんでいる人には魅力があります。そして、魅力がある人には魅力的な人達が集まってくるのだということが、セミナーのあの場所において理解できた気がします。

企業価値評価セミナーに参加するというのは、自分にとって非日常的な行為であり、それを求めて再受講生として足を運ぶだろうと思ひます。様々なバックグラウンドを持った人々が一つのテーマの下に集い、お互いを高めあう。そんな刺激を受けられる環境に身を置ける喜びをまた味わいたいです。

「株式投資って奥が深すぎ！」

A.Nさん (男性)

初受講: 2006年1月 (12期)

再受講回数: 0回

私は、2005年3月の『朝まで生テレビ』を見て、初めて板倉さんを知りました。ライブドアとフジテレビの企業買収劇がどうなるのかが知りたく朝生を見ている中、板倉さんの発言を聞いて当時19歳の私でしたが、「この人は違う！」

と思いました。

そして、名前を忘れないように携帯で名前をすぐメモってました(笑)。

それから約1年後、合宿セミナーを受講しましたが、それまでは、ブログを見ても、おもしろいけど難しいという印象だったし、何より20歳で受講しても大丈夫かなっていう気持ちがありました。ブログが読めるようになりたいし、いろんな知識を得たいと思い、まず、オープンセミナーを受講して、合宿セミナーに行きました。

まだ、再受講はしていませんが、合宿セミナーに行っただけでほんとはよかったです。大学では、医療系を専攻しているので、直接、授業内容とは関係ありませんが、株式投資のみでなく普通に生活する上で絶対知っておくべき内容だと思いますし、20歳という年齢で受講できたことは、お金の面だけでなく考え方など、これからの人生においてプラスになることばかりだと思いました。

受講した後では、ブログの内容が前より理解できるようになったと思うし、良い意味で、株式投資は奥が深いんだなと感じています。でも、知識や考え方など勉強しないといけない事がたくさんありますが、これからの楽しみです。

「企業価値評価セミナーと私」

H.Yさん

初受講： 2006年3月(13期)

再受講回数： 0回

私が企業価値評価セミナーを受講したのは、株式投資に役立つと思ったからでした。当時、好調な相場環境でもあり、利益は出ていましたが、チャートを見て何となく売買していた投資に違和感を覚えていました。

何らかの価値算定をする必要を感じ、情報を求めネットをさまよっていました。そこで板倉さんのブログに出会い、自分の拙い知識ながらも板倉さんの言おうとしている事に共感し、オープンセミナーに参加しました。

そのオープンセミナーで、板倉さんの面白いながらも核心を突いた話に夢中になり、もっと知りたい欲求にかられ、自分にとっては思い切った出費でしたが、企業価値評価セミナーへの参加を決めました。そして、2006年3月に受講しましたが、セミナーはとても楽しくあっという間でした。それからは、価値と価格の交換を意識しながらニュースをみるようになりました。

セミナーで価値算定の基本を学んだのですが、その後忙しい時期に入り、バリュエーションはそんなに多く出来ませんでした。しかし、バリュエーションした企業については、自分なりに価値に確信を持ち、持ち株の株価の上下に一喜一憂しない余裕が生まれ、精神的に楽になりました。また、板倉さんがブログで語られている事も理解しやすくなりましたので、その価値をしっかりと享受できるようになったと思います。セミナー受講前後で同じブログの理解度が全然違うのは、卒業生の多くが感じる驚きだと思います。

もっとも、事前に期待していた投資収益が上がっているわけではありませんが、それはまだまだ自分の勉強や研究が足りない所によるものだと思っています。

理解が不十分な箇所があるのが自分でも分かっているので、再受講に行きたいのですが、都合もありまだ一度も行けていません。今年こそは再受講に行き、更なる学びをしたいと思っています。

「実践企業価値評価セミナーに参加して」

N.Sさん (男性)

初受講: 2006年2月(12期)

再受講回数: 1回

板倉雄一郎事務所の活動を知ったのは、セミナーに参加する1年半程前でした。仕事についての何かをネット検索していたらたまたまヒットしたことがきっかけです。それまでは板倉雄一郎という人物について何一つ知りませんでした。以来、仕事の合間にブログを拝見させていただき、次第に興味を持ち始めました。著書も何冊か読んだり、何かとブログをチェックしたり。その後も、興味は深くなるばかりでした。

セミナーについても早くから参加したい意思はあったのですが、結局参加しようと考え始めてから1年くらい経過してから決めたと思います。

参加理由は、(会計に関する仕事をしながら)投資に関する知識が皆無だったこと 数字を作ることは出来たが、それを活用する術に乏しかったこと 転職先で仕事が少し落ち着いたこと 30歳を迎えたこと 刺激が欲しかったこと 等々があげられます。

自分なりに20代を頑張ったつもりなのですが、30代という次のステージを迎えるにあたり何か新しいことにチャレンジしたい気持ちがありました。

参加後の感想は、多くの受講者が口を揃えて言うように、「本当に参加してよかった」です。受講後1週間はしばらく興奮状態だったと思います。参加して1年が経ちますが、その後は明らかに物事に対する考え方が変わったと思います。それは仕事であったり、趣味であったり、生き方、将来に対してだったり、色々です。

また、セミナーには様々なバックグラウンドを持った方々がいらっしやるので、そこから得る刺激もまた、私にとって非常にプラスに働いております。会社勤めをしているとやはり世界が狭いからです。とはいえ、すぐに自分が成長してバリユエーションをバリバリやっているかというところでもありません(笑)週末に数字とにらめっこするのがどうも苦手だったり、好きなサッカーを観にいってしまったりするので、バリユエーションほとんどやっておりません。ただ、そこは自分のペースでやればよいのかな、と思っております。困ったときは再受講制度もありますし、あせらずに勉強していけばよいと思っております。

再受講は半年後に1度受けました。基本的には変わっておりませんでしたが、各コマともレベルが

上がっており、その講義の質にも感心させられます。パワーポイントが非常に良質なので、実は、仕事でpptを作成する際、参考にしています。再受講は3月までにあともう一度受講したいと思っています。

最後に、板倉雄一郎事務所の活動に少しでも参加することが出来てうれしく思っております。また、今後の活動に期待すると共に、どこかで自らも力になれる時期が訪れるようになればと考えております。価値提供が出来るように。

「知識」と「自分」が繋がっているセミナー - 知識を得ると自分が変わる!？」

てっつおんさん (男性)

初受講: 2005年10月(9期)

再受講回数: 3-4回

そもそもの受講の理由は、多くの方がそうであろうと思いますが、ファイナンスの知識習得、それも企業への投資活動に直接役立てられる知識を得られる期待があったためでした。

セミナーを知ったきっかけは、ライブドアの一件が生じるしばらく前からはじまった、板倉さんのブログでした。ファイナンス用語で検索すると時節表示されるページ達。いつしかブックマークされるようになっていました。そうしているうちに始まったのがスタッフ募集の案内とセミナーの開始案内。そのとき受験を控えていた自分は、受験が終わった時に必ず受講することを決めて、その日を楽しみにしながら勉強を続けていました。

受験終了後の日程が公開されると、さっそくセミナーに申し込みました。試験の内容が財務分野を含んでいたため、事前に多少の知識は知っていたかもしれませんが、しかし、実際の投資に応用するほどの理解には程遠かったのも確かです。たとえば『バフェットからの手紙』を読むことにより優れた事業に投資する必要性は知っていましたが、それが投資における成功にどう結びついていくのか、その裏づけとなる根拠の理解に乏しかった状況でした。セミナーでは、こうした本質的なこと、価値の源流を辿ることができるのではないかと、という思いも強かったのです。

受講直後は、期待以上の内容にただただ驚愕しました。もちろんまだモヤモヤ感は残っていましたが、しかし事業に関わる各要素が有機的につながり、一気に視野が開けた気分でした。そのときは株式市場全体が順調なこともあって、「あぁ、もうこれで俺も億万長者だ。」という気分さえなれたのでした。(笑)

しかし、セミナー効果はこれだけに留まりませんでした。何となく今の自分ではいけないと思っていたことに対して、どうすればいいかが見え始めてきたのです。つまり自分の生き方まで影響し始めてきたのです。おそらく自分自身の悪いところがよく見えてしまったからだと思うのですが、なぜファイナンスのセミナーでそう見えたのかは未だによく分かりません。自分のなかではこう結論しています。セミナーには、自分が(顕在的にも潜在的にも)なりたいたいと思う姿を備えた人たちが集まっており、成れていない自分とのギャップが具体的に見えてしまったのだろう、と。そのため自分がより客観的に見えてきたのだと思います。

今から思うと、受講して本当によかったことは、こうした生き方そのものを変えてしまうようなたくさんのきっかけに恵まれたことです。

その結果学んだこと、変わったことはたくさんあります。それぞれは小さなことですが、たくさんあります。あげればきつとキリがないのですが、いくつか挙げてみます。

- ・ 自分が選んだ道ならば、楽しくやる、楽しくなくても楽しくする。それまでの苦しさ先行の自分から楽しさ先行へ。苦しい受験勉強を楽しくできた要因だと思います。
- ・ 自分から動く。動く姿を見ることで、真似ができました。言葉では学べないものを学べたと思います。今は自然と動こうと思えるまでになりました。
- ・ スピードをあげる。アクセルの踏み込みも面白いことが分かりました。ブレーキかけがちな自分にとっては、新鮮なスピードでした。まだまだ踏み込みが足りませんが、時々、ブレーキと間違えてアクセル踏んだりするのが難点です。
- ・ 練る。待つ。あわてない。これらはスピードとつながっていることが分かりました。
- ・ 常に相手の期待を上回るアウトプットを出すこと。まだ分かりませんが、いつか自分のアウトプットで「こういうことか」と感じたいです。

総じていえば、何かをはじめめることに躊躇してばかりだった自分が、いつからか「何でそんなに前向きなの？」と人からいわれるまでに・・・変わってしまったようなのです。仕事は前よりも忙しくなり、プライベートも予定が増えるようになり、体はあちこち移動することが多くなりました。一方で心は平穩、ストレスも減りゆとりが生まれました。以前はいったい、何に時間を使っていたんでしょうか。。。

セミナー参加当初の目的は確かにファイナンスにありました。今は不思議と、懐かしいくらいに遠ざかっているような気がします。そして確かに、売買の頻度はがた落ちです。ところが、PC の前で四苦八苦していた頃よりも有報を読む数が増え、企業への理解も増しているような感があります。

こうした今から考えられるのは、自分自身に足りないファイナンス知識を求めた結果、回りまわって自分が変わったということです。セミナー受講当時は、自分に知識が足りないと考え補おうとしました。一方、いまは知識を使う自分の足りなさを感じ、自分が変わっているように思います。まるで、名刀を手に入れたがために武者修行に励むかのようなようです。

残念ながら、昨年の市場停滞により「あぁ、もうこれで俺も億万長者だ。」という気分は気分ではなかったことが証明されてしまいました。しかしセミナー受講以降、自分自身の内在価値は一貫して高まっている、そんな気分がしています。

「企業価値評価セミナーを受講して」

坂本 直樹さん

初受講: 2004年11月(2期)

再受講回数: 10回以上

ブログ: <http://lm.spaces.live.com/>

受講したきっかけ

私が投資に興味を持ったのは2004年からです。素晴らしい人達との出会いもあり、どんどん投資の面白さにのめり込んでいきました。

板倉さんとの出会いは2005年1月でした。

私がたまたまgoogleで検索した「企業価値」というキーワードに板倉さんのブログがヒットしたのがきっかけです。

ブログのエントリーを読んだ時に衝撃を受けたのを覚えています。10分後には企業価値評価セミナーに申し込んでいました。

セミナーの申し込み期限は既に過ぎていましたが、無理を言って入れてもらったのを覚えています。

いつ初受講したか

2005年1月15日、16日の2日間に渡る第2回企業価値評価セミナーを受講したのは私の人生で大きな転機となりました。特に1日目に作成する200年シートは衝撃です。

私は200年シートで、企業の価値創造メカニズムを理解しました。

今でも200年シートの数字を変化させてみて、その結果どうなるかを見て楽しんでいます。

再受講

初めて受講する人、再受講する人、皆さんそれぞれが経営や投資で企業価値評価を活かす為に学びにきています。

財務のプロの人がいれば財務は分からないという人もいますし、投資なんてほとんどやった事が無いという人もいます。

1日目の朝に初めて会った受講生同士が2日目の夜には、企業価値評価の共通言語でコミュニケーションしています。

受講生同士で情報交換し相互に学び合えるのは本当に楽しいです。

自分が理解しているつもりでも人に説明すると説明できず、実は理解していない事に気付くことがあります。

そうすると疑問点が出てきてさらに勉強しようと意欲が湧きます。

セミナー内容も回を重ねる毎に充実していき、受講生の学ぼうというエネルギーと講師陣の伝えたいエネルギーとが交差して、まるで良いエネルギーが循環しているようです。

企業価値評価セミナーを受講して何が変わったか

私はシステム・エンジニアとして約9年間、SCM(サプライチェーンマネジメント)や経営計画シミュレーションシステムの構築に携わってきました。

企業価値評価を学ぶ事によって新たな視点を得ました。

自分では、システムについて理解しているつもりでしたが、新たな視点で仕事を見直すとまだまだシステムについて理解していない事に気付きました。

長い時間同じ業界で仕事していると、どうしても考えが固まってしまうですがそこに別の新たな視点を得た事によって仕事の成果もさらに良くなりました。

私を得た新たな視点とは、情報、観察、判断の3つです。

・情報

自分の目で見て、自分の頭で考え、独立した思考を持つ事。

・観察

長い時間軸で事象を観察しなければならない。

広い視野で観察する事の大切さ。

・判断

価値を生むのはお金ではなく人である。

お金ばかりを追求するのは単なるマネーゲームで何も生み出さない。

本当に豊かな社会を作るのはお金ではなく人である。

あらゆる経済活動は価値を見て判断しなければいけない。

という事を学びそれを意識して仕事と投資をするようになりました。

交流

板倉さん始め、パートナー、受講生の人達と親しくさせていただいて交流を深めることができたのは私にとって本当にかげがえのない何よりの宝物です。

皆さんそれぞれが仕事も遊びも命がけで楽しむ姿勢はカッコよくて、とても大きな影響を受けました。

その結果、それまで過ごしてきた時間と比較して明らかに1分1秒の価値が高くなりました。時間の長さは誰しも平等ですが、どのように過ごすかは人それぞれ異なります。素晴らしい仲間を得られた事と時間に対する意識が変わった事に感謝しています。

「人生最後(?)の挑戦」

六然さん

初受講: 2006年11月(21期)

再受講回数: 0回

昨年1月末、ライブドア事件を論じる「朝まで生テレビ!」を観ていて、板倉さんをはじめて知りました。あの、ただ喧騒のみが印象に残る、観ていたら頭が痛くなってくる、メチャクチャな番組のなかで、ひとり板倉さんだけが静かに存在していました。

その発言内容というよりも(発言は田原さんに遮られたこともあってよくわかりませんでした)、その姿、その雰囲気、心がひかれ、ブログ、本などを読み始めました。それは、フィナンシャルリテラシーのほとんどなかった私には、とても新鮮な世界でした。

そして、セミナーを受けたいという、はやる気持を抑えて、やっと昨年11月、21回セミナーに参加させていただき、今は再受講を受けたいという、はやる気持を抑えて(遠方のため、なかなか行けません)独学(?)で勉強しています。

63歳にもなっているのに、なぜかこの勉強が楽しいのです。

その大きな原因として、板倉さん、パートナーの方々、卒業生の方々といった「人々」の存在が、私に大きな影響を与えているのだろう、と思います。

この「コミュニティ」は、ほんとうにすばらしい!と思います。

63歳からの、人生最後(?)の挑戦が現在も続いています。

これからも続きます。

それは何かというと、

私のこれまでの人生で、すっぱり抜けていた世界、つまりファイナンス、企業価値評価、バリュエーションをものにしたい、そしてそのことをとおして、資本主義のメカニズムをつかみたい、さらに言えば、「人間」がわかるようになりたい、ということです。

今後10年間、現在の体力、気力、頭脳(これが一番問題です!)がつづいて挫折しなければ(がんばります!)73歳の私は、ある種の満足感を味わっているでしょう。

まゝ 焦らず、気長に勉強していきますので、皆さんどうかよろしくお願いします。

「板倉さんの哲学に触れて」

名古屋 Y 女史さん

初受講： 2005 年 7 月 (7 期)

再受講回数： 2 回

受講のきっかけ

名古屋講演を聞いて、もっとこの人の話を聞きたいと感じました。

受講してよかった点・受講して何が変わったか

2005 年ころ、わたしは今後の自分の方向性を決めなくてはいけないきっかけがありました。

そのころの私は、自分が今後どうしたいか、というビジョンを持っていませんでした。

それをきっかけに、会社に依存しきっている自分に気づき、焦った私は、サラリーだけに依存しない自分になろうと思い、その頃ブームの始まりだった不動産投資を勉強しはじめました。

そしてその後、不動産を学ぶうちに、濱口さん(注: 卒業生)にお会いし、濱口さんの紹介で、板倉さんの名古屋講演を聞きに行きました。私は、すっかり心惹かれ、もっと話を聞きたいと思い、セミナーに参加しました。

セミナーに参加し、ブログを読むことで、わたしの考えはまた少し変わりました。

サラリーにしても、家賃収入にしても、結局はお金に依存している。

ぼんやりとそう感じました。

そうではなく、知識を増やして、それを社会に還元することが出来れば、自然と稼ぐことも出きるようになる。つまり、自分に依存する、自分を高めていくことこそが、大切なんだと思いました。

私はこのセミナーに出席させてもらったときの初日の挨拶で、「板倉さんの哲学を学びたい」とお話した記憶があります。

今は、2 年前とは考え方が大きく変わり、これからの自分の人生がとても楽しみです。

今後は、せっかく学んだバリュエーションもゆっくりと勉強していくつもりです(苦笑)

今後ともよろしく願います。

「はじめの一步」

S.Tanaka さん (男性)

初受講: 2006 年 11 月 (21 期)

再受講回数: 0 回

「株式投資をしたい」「お金のことについてよく知りたい」と考えていた私が板倉さんを知ったのは、約 2 年半前？(記憶は定かではありません)の Winners という TV 番組の深夜再放送です。Winners に出演されていた板倉さんに興味が湧き、板倉さんのホームページへ。エッセイを読んでいるうちに「この人はどうやら本当のことを言っていそうだなあ。セミナーに参加してみたいなあ。」と思うようになりました。しかし、私は当時、毎日実験に追われる貧乏大学院生。うーん、参加費の 25 万円、どうしようか…。

‘06 年 4 月に就職したのを機に貯金をし、2 年越しの思いが叶い、第 21 回セミナーに参加することが出来ました。こうしてやっとファイナンスの世界へ“はじめの一步”を踏み出すことが出来た！と思っておりました。

セミナーに参加してどうだったか。
うーん、難しい…。
「はじめの一步も踏み出せず」という感じでした。

しかし、帰ってきて再びエッセイや板倉さんやパートナーの方々の著書を読んでも、以前よりも遙かにわかる！これがセミナーの効果か！と嬉しくなりました。

ただ、まだまだ知識としては足りないことだらけで、はじめの一步を踏み出したとは言えません。(まだ、はじめの 0.1 歩くらいでしょうか。)これから、再受講や自己学習を通して、企業を評価できるようになりたいと思っています。

今後とも、板倉さんはじめパートナーの皆様、そして卒業生の皆様、ご指導ご鞭撻の程を宜しくお願ひします！

「時代にあらがうことのすごさ」

板倉祐治さん

初受講： 2005年9月(8期)

再受講回数： 0回

受講のきっかけ

受講のきっかけは、株に興味を持ち、かたっぱしから株式投資関連の書籍をあさり始めたときに感じた違和感からでした。「大生の書いたやさしい株の本」や、「ネコでもわかる・・・」(笑)とかいう怪しげな本も含め、十冊ほど株の本を読んで至った結論・・・

それは、

株で勝つには未来を予想するしかない!?

そんな事、凡人である人間にできるのだろうか・・・

一抹の不安が頭をよぎりました。

株式本を読み進む内に、以下の事が分かってきました。

まず第一にチャートという線について習熟する

何とかクロスを予想する

上がったら買う、下がったら売る

損は切り捨てなければならない

とにかく自分にとっては、チャート線というものがくせものでした。どうも納得がいかない・・・でもこれ乗り越えなければ、株式という世界は近づいてきません。しかも、自分は群衆に何よりも惑わされやすい性格です。なぜなら、下がったら真っ先に不安になって売ってしまう性格だから。でも、株をするには、株式用語というものを暗記して、ローソクのヒゲから明日を予想しなければならない・・・

こんなスパイラルに入りかけていた自分は、いったん株式への興味を閉じることにしました。分からないもの、納得いかないものに大切な時間とお金を投じるわけにはいかないからです。

が、その時!

「下がれば買いのチャンス！」

がーん

まさしく、逆転の発想。これだ！！！！と思いましたよ。世間とは全く逆のことが書かれている！！！！それが、板倉雄一郎さんのブログでした。そういえば、どこかでこのお名前を拝見した事が・・・と思いつくと、昔、“ナントカくん”というエッセーを書かれていた方ではないですか！（某サイトで結構読んでました(笑)

ところが、板倉さんのブログを読んでも、意味が分からない部分が多い。特に、ファイナンス関係はさっぱり分からない。うーむ・・・ここに書いている内容は、どうやら自分が知りたかった事のような。

知りたい・・・面白そうだ・・・でも、セミナーに行くほどでもないかな・・・結構高いしな・・・と考えていましたが、「どうせ悩むのなら、行ってから後悔しよう、それで悩まなければラッキー、悩んだとしても、それはまあいいや」と踏ん切りをつけました。実はセミナー受講のきっかけは、そんな気持ちからです。

いつ初受講したか

二年前の9月だったかな。確か8期生あたりだったと思います。いつの間にか20期を超えているんですね・・・すごい。

再受講は何度ほどしたか

残念ながら0回です。ちょっと家庭的に大転換があったので、それが落ち着いたらもう一度参加しなきゃと思っています。

このセミナーを受講して良かった点は何か

良かった点は、大げさに言えば、新しい価値観に触れた、ということでしょうか。

具体的には、『価格と価値は違う』と、『価値は有限』（聞いたことを自分なりに咀嚼したもので、若干真意とは異なるかもしれませんが、ご了承を）という考えを持てるようになったことです。

恥ずかしながら、自分はそれまで価格と価値の違いに、全く思いを馳せた事はありませんでした。でも、価格以上の価値を手に入れる事、そんなシンプルな事を知らなかったら、以後の人生、大

損のスパイラルにはまっていたと思います。それを考えたらぞっとします。

あと、「世の中の価値は有限である」という何気ない言葉も、自分にとっては、全く触れた事のない考えでした。価値は有限であり、経済の仕組みを知らない者から知っている者に移転していく……これを知ったら急にホリ モンや 上ファンドが憎たらしく思えてきました(笑)

セミナー以降、器用で金持ちじゃなくていいけど、不器用で貧乏な生き方だけは絶対にしないようにしよう！と、心に固く刻んでいます。でも、以上のことは今から思えば、板倉さんのブログに何度も書かれていますね……

受講して何が変わったか

新しい価値観の下で、物事を考えるようになったことです。セミナーに行った事がない人からすれば、『それだけのために、セミナー料をはらったの??』と思われるかも知れませんが、何のそんなことは一切気にならないのだから不思議です。自分にとって、セミナーの価値は 十分ありました。人生80年生きるとしたら、あと50年あるわけだし、十分に元をとれると思います。

とはいうものの残念ながら、セミナー参加後今に至るまで軍資金不足で株式投資は始めていませんが……相場の上昇気流に乗って株式を買わなければ！！と、何も分からないまま参戦しなくともよい、と思っています。気がつけば、株式の価値(=価格ではない)も上がってきていることだし、生活も軌道に乗り始めたところなので、そろそろいくつかバリュエーションし始めています。こういう心の余裕ができたことも、セミナー参加の効用です。

最後に……

「人生観が変わります！！」

決して怪しい宗教セミナーではないので、安心して参加できますよ！

「企業価値評価セミナーを受講して」

T.Hさん（男性）

初受講： 2006年6月（17期）

再受講回数： 1回

セミナーを始めて受講したのは、2006年の6月に行なわれた第17回でした。

エッセーはもっと以前から拝見していましたし、おりおばオープンセミナーにも参加していましたが、企業価値評価セミナーはその価格からずっと敬遠していました。（今からすれば何を躊躇していたのかと思わず笑ってしまいそうですが）

ですが、毎日エッセーを読むにつれて「意味がわからない・・・」という事が多くなり、また、自信の投資パフォーマンスがまったく上がらないこともあって、「このままじゃだめだろ。やっぱり直接話を聞きに行くしかない！」と思ってセミナーへの参加を決めました。

セミナー中とはとにかく多くの知識を持って帰ろうとひたすらメモを取っていたのですが、初めて接する分野が多くて、進行について行くのも精一杯という有様でした。（最後のバリュエーションも散々な結果でしたし。。。）

しかし、セミナー後に改めてエッセーを読んでもみると、以前なら2、3行読む毎に「・・・わからない・・・何で？」となっていたのに、「ああそういうことね」とすんなり読み進められるようになっていました。

それからは知識が少しずつ定着していく感覚が心地よくて、貪る様にエッセーを読み続け、さらに翌月に行なわれた第18回セミナーを再受講した時には、知識を得ていく事自体が楽しみになっていました。

その再受講が終わって1週間程経った頃にふと思いました。「この2ヶ月で色々な知識を得て、それはとても充実していたけれど、じゃあ社会人になってから今までの3年間勉強することも、新しい分野に取り組もうとしてこなかった自分は一体何？どれだけの時間を無為に費やしたのか？」と。丁度同ような時期に仕事上で他の同期の成長の凄まじさを見せつけられたこともあって、「成長する事に背を向けて、立ち止まって漫然と過ごしていたのは自分だけだったのではないか？」と、相当焦りました。

その後色々な分野に手を出してみて、現在ではその中で最も興味を持つ事ができた簿記の勉強

をしています。仕事上では直接関係しませんが、投資面では財務諸表が読めるようになる等、色々役に立っています。

セミナーへの参加は株式投資のパフォーマンスを上げる為でしたが、いつの間にかセミナーで得たもの全てが自分への投資を支える大きな柱となりました。

人も時間の経過と共に成長し続けていく存在なのだということに、今更であっても気づけたことがこれからの自分にどう影響していくのか？そのことがとても楽しみです。

「まはる 企業価値評価セミナー」

白澤秀樹さん

初受講： 2006年7月(18期)

再受講回数： 0回

昨年、初めてセミナーに参加しました。

きっかけは板倉さんの著作を読んだこと、その後、WEBを拝見し、思い切って参加しました。現在もチャレンジしていますが今までの集大成として行いたいビジネスに役立てたいという思いとともに同じ方向性を目指している仲間に出会いたかったからです。また、場合によってはスポンサーやアドバイザーになりうる方との出会いも期待しました。

私はちょい悪ではなくトホホな凸凹大バカオヤジ;)です。

でもある時から気づき、カタチにしたい夢に関しては「お天道様」に恥ずかしくなく、だからこそ一度もぶれることなく、根っこを張ってこれました。

「本音と建前」という言葉がありますが21世紀は「本音 = 正直」がとても大切な時代だと思います。板倉さん始め板倉事務所に集っている講師の方々の生き方 + 目指しているところに「本音」を感じました。

セミナーやメーリングリストのやり取り等内容もそうですが、エクセル;)に関しても正直申し上げて現在でも「チンプンカンプン」です。「わからないことだらけ」ということが「わかった」とこと、セミナーに参加したことにより「人儲け」が出来たとをまずは感謝しております。

セミナー後、個人的にお世話になった方たちにはあらためてこの場をお借りしお礼申し上げます。ありがとうございました:)

当初、セミナーの金額にはビビりましたが、再受講含めたバックアップを考えたら決して高くはありません。残念ながら受講後、タイミングが合わず再受講がまだ出来ていません。年明け後も再受講の日程とのタイミングが合いませんが春先のセミナーには再びぜひ参加したいと思っています。

どんな優秀な方でも一人で出来ることはたかが知れています。また、闇雲に突進するばかりでは空回りしてしまいます。やっと、そんなことがこの歳になってわかりました。「情熱」がもちろん大切ですが、経験豊富な皆様から本物の「知恵」や「知識」をこれを機会に得たいと思ってます。

今後、板倉セミナーから「本当の豊かさ」「持続的な環境」「平和な世界」を実現する21世紀を代表するビジネスが生まれることを期待しております。「現代の寺子屋」板倉セミナーのますますの発展をお祈り申し上げます。

あろは&まはろ！

「合宿セミナーに参加して」

木下亘さん

初受講： 2005年2月(3期)

再受講回数： 10回以上

僕が合宿セミナーに参加したのは2005年2月。
第3回セミナー、合宿形式になって2回目のセミナーだった。

株式は買ったことはありながら、妥当な株価というのがわからず、買った株が上がって喜び、下がって悲しんでいる投資家だった。

そんなときに、ネットサーフィンをしていて板倉さんのサイトに出会い、
(懲りないくんはたまに見ていたが、知らないうちに休止されていてそれ以来、特に板倉さんを見つけようとは思っていなかった) ブログに書かれていることが解らないながら興味をもちセミナーに参加した。

初回のセミナーは散々だったと思う。まず、べき乗のボタン(^ これ)が解らないところから始まり、(それまで学校での数学以外でべき乗って使ったこと無かったし)理解度30%ぐらいだったのではないだろうかと思う。

ただ、途中の休憩時に板倉さんから、「再受講 1 回目は無料だから」というのを聞き、以下のように僕は考えた。

「細かな所は飛ばして、再受講のときに聞こう。まずは DCF 計算シートを完成させよう」
って。

シート内の数字は埋まったけど、その数字が何を意味するのかよく解ってなかったって 今は思う。

そして、自分なりに復習しつつ再受講に参加した。

初回の再受講のときは、前よりもわかってきたけど、まだまだ理解出来てないなって思う状態だった。

本当に理解し、自分の物になったのは1年ぐらいたった後。

自分でもおそいなあ、と思うのだが、遅いのは遅いのでいい面もある。

何度も再受講に足を運んだことで、いろいろな人達と話をすることが出来た。

このセミナーは、DCF 法による株価算出の方法を学ぶことがメインであるが、いろんな受講者がいる。僕のようによくわかってなくて参加する人もいるし、税理士や会計士のようなプロの人達もいる。九州やはたまた海外から参加する人達もいて、いろいろと話すことで世界が広がったと思う。

僕はある大企業の地方の工場で働いているため、それ以外の世界を知らないことが多く、他業種の人々と交流ができたことが良い。しかも同じブログを見、同じことを勉強しているので、話がはずむ。

受講生の人もそうだし、板倉さんやパートナーさんと話をすることで、経済の話から、人生の話まで、いろんな話題について話すことができる。

僕の小さな考えとは違う話が多々聞け、ものすごく勉強になった。

板倉さんをはじめ、何人かの人に休憩中や、懇親会時に聞いた、教えてもらったことは、僕の人生に多大な影響を与えている。その話を聞けただけでも、セミナーに支払った価格に見合うぐらいである。

もちろん、ここで勉強した本来の株価算出方法は今後も使うし、とても重要なものだ。

単純な価格は高いけれど、僕にとっては価値 > 価格セミナー、それも、大幅に価格より得た価値の方が高いセミナーだった。

「学ぼう！」

榎並 顕さん

初受講: 2005年6月(6期)

再受講回数: 10回以上

ブログ: <http://akira-enami.jugem.jp/>

私達は普段、意識下において、また無意識において、多くの情報を取り入れ、自ら考え、判断して行動しています。しかし、漫然とした情報の中で、その裏にある思いに考えをめぐらせ、思索を行った上で行動を積み重ねているかという点と少なくとも私はそうではありませんでした。2005年6月までは。

板倉雄一郎事務所のセミナーに初めて参加したのは、2005年6月に開催された第6回企業価値評価セミナーです。ホリエモン騒動を始めとする一連の報道で、衝撃を受けると共に一体何がどうなっているのか自分はさっぱり分からないという危機感に突き動かされているなか、板倉さんのブログにたどり着き、内容を日々読む中で受講を決めました。

その後、10回ほどの再受講への参加、また、アドバンスドセミナーの受講を通じて、全く新しい世界が開けたように感じます。

一連の学びは、私にとって、住み慣れた居心地のいい村から新しい世界への旅立ちを意味しました。

常に、自分の判断に意図を持って、そして自信を持って行動するという点への意識が飛躍的に高まったからです。

メディアや本などの情報をただ、漫然と受けとるのではなく、書いた人のポジション、誰と誰のお金のやり取りを含むのかといった観点で思いをめぐらせるようになりました。どんな物事や行動についても、その内在価値を掴み取ろうという努力をするようになりました。自分で物事を考える癖がつき、そして少しは力がついてきたのではないかと思います。

目に映る風景も変わり始めました。自分の置かれた環境、仕事の状況を冷徹に捉えることができるようになりました。また、自己成長、自己改革の意識も跳躍的に高まりました。

板倉さんのセミナーに集う仲間達は、私のかげがえのない財産となっています。

能力があり、自主的に、相手の気持ちを忖度し行動する集団。尊敬すべき彼ら彼女らは、だれも、

「べき論」で語らないですし、もちろん、誰も何の「コミットメント」も求めない。すべて、自発的に自らが価値を提供する。メンバが協調しあうことで、さらに、よいスパイラルに突入していく、そんな強烈な体験を数多くしましたし、それは日々のメンタリティを変えるには十分なインパクトがありました。板倉さんが常々おっしゃっている、「渋滞は自分自身が作っている」という他責 NG という姿勢は今もどんなシチュエーションにおいても私を支える言葉となっています。

人は、日々学ぶ生き物だと思います。

今回板倉雄一郎事務所との出会いの中で、強く感じることは、

1. 必要性に迫られて学んだことが身につく
2. 楽しいことは長続きできる

ということです。

板倉雄一郎事務所の活動はまさにそれに合致しています。もちろん 1、はそうなのですが、2.も特筆すべきだと思います。

板倉雄一郎事務所の魅力を表す言葉として、もっともぴったり来るのは、「わくわく」するだと思います。

オープンマインドで魅力的な人々が集うと、物事は加速度的に広がり深みをもっていきます。だから、毎回セミナー会場は素晴らしい場を生み出し、パワー溢れる場となります。

うれしい、楽しい、幸せが自然と口をついて出ます。

板倉さんやパートナーの方、そして、受講生のネットワークは現在も、ヴァイラルに広がりを見せて続けています。日々、刺激を受け、語りあい、学び、考え、悩み、その上で自信をもって行動していこうと思います。

だから、

皆さん、仲間の輪に加わり、一緒に学びましょう！！

Success is a journey, not a destination.

今までの、そしてこれから始まる素晴らしい出会いと旅に感謝しつつ。 榎並

「無題」

KNさん (男性)

初受講: 2006年6月(17期)

再受講回数: 0回

受講したきっかけ

「社長失格」を読んで板倉さんに興味があったので。

このセミナーを受講して良かった点

皆さんが基礎から親切丁寧におしえて頂いた点と、夜皆さんとの語らいがとてものしかったです。

受講して何が変わったか

日本経済新聞を読む時に、これまでわからなかった直接金融と間接金融の違いが浮き出てくるようにわかり、増資の背景が理解できるようになった。

「企業価値セミナーの効果」

S.Hさん (男性)

初受講: 2006年4月(14期)

再受講回数: 2回

私が最初にこの企業価値セミナーを受講した目的は、株式投資活動の成果を向上させるためだったと思う。“だったと思う”というのは、後に述べる初受講および再受講などで、さらに深く板倉雄一郎事務所の活動、そして卒業生の皆様とかかわっていくに従い、それが徐々に変化してきたと実感するからだ。

企業価値セミナー参加のきっかけは、1年ほど前の2/19「おりおばオープンセミナー」にさかのぼる。

以前の私は失礼にも、以前から板倉さんという人物もハイパーネットという会社、「社長失格」という本も知らなかった。そして当時本当にたまたまであるが、複数の起業家DVDと一緒に“勢い買い”した「失敗から学ぶ非常識な経営論」を視聴していて、

“その昔経営で大失敗して、今はその経営の経験から、資金を受け取る側から提供する側の逆サイドをやっている人??”というようななんとなくの印象で板倉さんという人物像を記憶していた程度だった。

そして「金持ち父さん、貧乏父さん」に触発され、株式投資を趣味程度にやっていた中で、これまたたまたま板倉雄一郎事務所のHPを知り、ブログを毎日閲覧するようになった私は、板倉さん自身への興味がだんだんと深まり、もっと知るという意味で「社長失格」や「社長失格の幸福論」、そして新しく発売された「おりおば」の書籍を読み、さらには「お金と経済の本質」のDVDを繰り返し何度も視聴する中で、そこに出てくる“企業価値評価”というものにだんだんと興味がわいてきていた。

但し、興味があってもセミナーに参加するということについては、当時の私には大きく3つのハードルがあった。

1つめは、普段の仕事もファイナンスとは全く関連のない商品開発部門に所属しているわけだが、畑違いのイメージからくる「会計知識もなくてついていけるのだろうか?」という不安のハードル、2つめが九州～関東という距離のハードル、そして3つめがやはり20万円以上の受講料に対する金銭的ハードルである。

ところがそこに願ってもいないところにチャンスが現れたのが、「おりおばオープンセミナー」であり、

確か参加費も1万円で、しかも非常にラッキーなことに、私は開催翌日に東京出張の予定があったのだ。

このチャンスを逃すことなく参加を決意した私は、どうせならと最初はお断りしていた夜の懇親会にも積極的に参加させていただき、セミナーでのわかりやすい説明による衝撃的な内容と、書籍やDVDで見た板倉さん本人や橋口さん、その他、“道具としての～”の著者、石野さんたちとお会いし直接会話する中で、セミナー参加へのハードルを作って勝手に高くしていたのは自分自身であったことを知り、早々その4月(第14回)に初受講するに至ったわけである。

初受講のときは、消防のホースで水を飲むような感覚といえば伝わるかと思うが、2日間にわたる腹いっぱい知識を浴びて、とりあえず1周をへたくそでもへとへとなりながらなんとか走りきった、という感じだったが、それでも眠くならない自分、必死に学び取ろうとする自分に今まで過去において受身的に受講してきた会社で行われるような講習会の類とは、全く異なる2日間であったことを覚えている。何より、不安がありながらも、そこからさらに再受講へと継続できたのも、「みんなも最初はそんなものだ」という同じ仲間がいるという親近感と、パートナーの皆様の暖かいその後のフォローがあったからだと思う。

そして何より私に今でも興味を抱かせるのが、板倉さんをはじめ事務所や周囲の人たちが、本来、難しく眠くなるような会計とか財務とかいういわゆるファイナンスの理論を、“楽しみながら”やっているということである。最初のおりおばセミナーのときも、開始前にロビーで待っている間に、受付の隅にあるパーティションの向こうから、事務所の皆さんたちと思える爆笑する声は何回となく聞こえてきて、「この集団はなんだ？」と、当時不思議に感じていたことを思い出す。この“楽しむ”ということ、楽しさがなければ続かない、という本質的なこともセミナーで教わったことの一つである。

1月の再受講で3回目となる私が、このセミナーを受講して変わったことといえば、本来の目的の株式投資の面と普段の生活という2つの側面からいうと、まず株式投資においては、当初企業の印象や自分の趣向で購入していた銘柄が多いときには20銘柄くらいあったのを、まずは遠慮なく売り払いきりセット、投資の絞込みを行ったことである。わからないものには投資しない、そして真っ当な経営者のもと、時間経過と共に価値が増大する企業への投資だけに絞るといって株式投資に対する一つの柱のようなものができたと実感する。そもそもなかなか見つからないのが普通であることがわかってきて、今では1年で倍にしてやろうとかいう感覚もなくなって、あせらずファイナンスの知識を身につけることに重点をおいて、今はコツコツと少しずつではあるが、過去見向きもしなかった会計や財務の知識を書籍などで勉強するようになっている。

普段の生活面でいえば、会社勤めをする中で“企業のしくみ”を学んだ今、ステークホルダーの各

側面から自分の会社を見ることができるようになったことが大きな変化である。具体例でいうと、今までお客様第一主義、お客様の満足のため！というのが、悪いことではないが最前面にある社内の雰囲気の中で、社会に価値を生み出す商品で、お客様に真の価値を提供できる場合には、それ相応の価格をいただくべき、もっといえばいただくなくてはいけないというような、“安易な値引き競争”に対する意識の変化や、その他取引先に対する接し方も、今まではなんとなく描いていた優越感のようなものについても、過去の自分を大きく反省させられることとなった。そして企業が最も重要視すべきはその「継続性」にあるというということが、徐々に実感としてわかるようになった。

また、ファイナンスとは一見関係ないようではあるが、生活していく中での人間関係などを含むあらゆる面においてこの「継続性」を意識することが多くなり、家族や同僚とのふれあいにおいて“カチーン”とくることがあっても、ここで怒る出す自分と、冷静になって対処する自分の2パターンでどちらが継続性があるか、つまりその後の会話なり、仕事なりが続けられて、本来の目的としているみんなそれぞれが楽しめるか、幸せを感じることができるか、をちょっと一息ついて考えることができるようになった。その効果あってか、最近はあまり短絡的に怒ることも少なくなった感じがしている。あせってはいけない、自分だけ何かをいただくなどと思ってもいずれは続かなくなる、これもセミナーの中で板倉さんから学んだことである。

以上のように、私はこの企業価値セミナーで、ファイナンスの勉強をしているつもりであるが、実際には他のことを学んでいるような気がしてならない今日この頃である。

これからの生活の中で、経済的側面、仕事の面、健康の面、人とのつながりにおいて、楽しさ、そして幸せを感じる瞬間を継続するために最適なバランスをとりながら、この人生という貴重な時間を使っていきたいと思う。

今後も何らかの形で、板倉雄一郎事務所の活動に、機会をつくって積極的にかかわっていききたいと思っている。

「企業価値評価セミナーへの投資によって得たもの」

9 期松浦さん（男性）

初受講： 2005年10月（9期）

再受講回数： 1回

板倉雄一郎事務所の企業価値評価セミナーに出会ったのは2005年の夏頃です。DCF法による企業価値評価を元に株式投資をしたいと考えていた私にとって、企業ファイナンス基礎オープンセミナー（2005/8/27）の開催は、コスト的（お金と時間）にリーズナブルで、タイミング的にもちょうど良いイベントでした。このときの内容はとても満足のいくものであり、そして、自分のフィナンシャルリテラシーがどれほどのものかがわかった貴重な機会でした。

オープンセミナーに参加したあと、それなりの予習をして、合宿セミナー（2005/10/22～23）に参加しました。ファイナンスの基礎から応用までみっちり勉強できたあつという間の2日間でした。今振り返って考えると、これらの日を境に、さまざまなものが得られたと気づきました。

ファイナンスの知識

まず、ファイナンスに関するニュースなどから得られる情報の質と量が増えました。日々受信する情報の内容を吟味して、自分にとってどのように評価すればよいか、徐々に判断できるようになりました（怪しいところはわかり難い用語や説明が多様されがちだ。そもそも解らない時点でハイリスクであると）。資産運用も、インフレなどから自分の資産を守ることができ、まっとうな経営を行っていて、価値ある商品やサービスを提供している企業に投資しようと思うようになりました。私の中で理解が足りない部分や、仕組みの変更などのフォローは、ブログなどのエッセイを読み、再受講（1回）、上級編のアドバンスドセミナー、バリュエーション会などに参加して理解を深めていくことができました。ありがとうございました。

コミュニティ

そのような活動に参加していくうちに、企業価値評価セミナーで取り扱っている内容は、企業という仕組みにおいて、投資家から見た企業価値だけではなく、他の利害関係者（顧客、従業員、取引先、間接的には行政や銀行のサービスの受益者）からみた企業価値も関係していることに気づきはじめました。もっと掘り下げれば、企業に限らず人が集まってくまくやっていくために大切なことは何か、うまくいく仕組みづくりに関して、様々なイベントを通して、板倉雄一郎事務所のスタッフや多くの卒業生達との交流の中から、実感することができました。

素晴らしいコミュニティに参加して、良質の刺激を受けて、楽しみながら継続的に学び、得た知識をリファインしながら実践すること(理解していても、実践しつづけるのはなかなか難しい...)を心がけるようになったことは、私にとって大きなリターンだと思います。ありがとうございます。

「お金と人生の初等教育」

T.Kさん（男性）

初受講： 2005年6月（6期）

再受講回数： 1回

受講のきっかけ

セミナー受講のきっかけは、
まず 2005 春ライブドアのニッポン放送買収ニュースの際に拝見しました
板倉雄一郎さんのテレビでの発言「価値と価格は違う」に
得も言われぬ奥深さ、魅力を感じ、興味をかきたてられたことにありました。

その後ブログを読んでみて、
人を煙に巻くような難しいことばではなく、
論理を飛躍したようなところもなく、
とても平易なことばで丁寧に楽しく解説されているところに
さらに引き込まれていきました。

難しい内容でも、これなら面白いし、
何とか自分でも理解できるかも、
消化不良をせずに無駄になることはないかな、
と色々な材料、色々な側面からメリットを確認し、
意味ないんじゃないか、金額が高すぎるんじゃないかとか、
周りと自分の頭の中から聞こえてくる雑音をひとつひとつ消して、
まさに石橋を叩きまくって
自分で自分を納得させることが出来、
ようやく受講に踏み切りました。

* 何だかこう書いていると、投資のプロセスのようですね。

受講して良かった点

まず、期待以上の内容であったこと、
これは、かなりの思いで決断した自分にとって

気分的に結構救われました。

内容についてですが、

受講当初は、企業価値評価という知識がゲットできればよい、
と思っていました。

2日ですぐゲットできるほど、簡単ではありませんでした(笑)が、
それより何より良かったことは、
何より世の中の仕組みを考える視点・気持ちが
芽生えたことです。

受講して何が変わったか

1)金縛りが解けた

セミナーに行ってみて思ったことは、
やってみないと分からない楽しいことってあるな、ということだった。

以来自分に、何でもやってみようという

何か自信のようなものが出てきたのだと思う。

自由に考えるようになった。

カラダで欲していることを

アタマで無理やり否定して止める、ということは少なくなった

自分の知らなかった分野や人に

必要以上に恐れることがなくなり、

垣根を気にしなくなった。

楽しめるようになった。

気持ちの面で金縛りが解けたような気がした

2)あせらずじっくり今を楽しむ

それまでは仕事も人とのつきあいも

あせて結果を気にしすぎて

対症的に物事を行うことが多かった気がしますが、

セミナー以来じっくり考えて
独力で取り組むことが増えた。

『過去をくよくよせず、
未来をあせることもせず、
今をきちんと楽しむ
日々の変化をかみしめる』
という板倉さんや周りの方々の言動が
私の生活に大きな意識転換をもたらしたのだと思います。

おかげで、今まであまり話すことが多くなかった
両親との仲が良くなったような気がします。

3)ことばって使えるようになると面白い

いろいろな世の中の事柄を
企業価値評価セミナーで習ったことばや
自分で勉強したことばで
自分で読み解こうとするようになりました。

自分のことばが生きてくると、
今まで自分の中で細切れだった世の中が
どんどんつながっていき、
面白いと感じている真っ最中です。

本を読むのが好きになりました

気づき

このセミナーの効能は、
ファイナンシャルリテラシーを向上する = お金の初等教育というのが表の顔ですが、
その裏の顔は人生の初等教育だったのではと思っています。

実際、自分にとってはファイナンスの基礎知識を得ただけではなく、自分の生きる姿勢を変化させたと思います。

また、セミナー後、いろいろな側面(HP、書籍、ML)からの絶え間ないことばのフォローによって、気づきも複利計算のように増えています。いつも有難うございます。これがこのセミナーの一番のリターンではないでしょうか。

経済やお金儲けを勉強するということは、人間の裏にある心理学、哲学、歴史を学ぶことだということを実感しています。

「企業価値評価セミナーを受講して得たもの」

T.Sさん (男性)

初受講: 2005年7月(7期)

再受講回数: 4回

企業価値評価セミナーは株式投資のメルマガを読んでいて、たまたま板倉さんのブログを見つけて知りました。社会人になってから株式投資を始め、「バフェットからの手紙」という本を読んで、自分で企業の理論株価を計算出来るようになりたいと思い、どこかで教えてくれないかなあと思っていました。板倉さんの企業価値評価セミナーは、金額は安くはないので正直勇気が要りましたが、自分が探し求めていたものだったし、ブログを読み込んでみてこの人は本物だと直感的に感じて、「株式投資で1億円を作る方法をたった21万円で教えてくれると考えたら安い」と思ったので思い切って参加を決意しました。第7回の合宿セミナーを初受講して、全部で4回ほど再受講しています。

セミナーを受講して良かった点は、「本物の株式投資とはどういうものか」ということがわかったことです。今まで自分がやっていたことは、株式投資ではなくただの投機だったのだということがよくわかりました。セミナーを受講するまでは自分で投資対象の企業の価値がわからないのでいつも価格の変動でびくびくしていましたが、今では企業の価値を自分なりに把握できるようになったので信念を持って株式投資に望めるようになりました。

また経済ニュースが本質的に理解できるようになりました。ライブドアや楽天といった企業はなぜあんなにもM&Aをしたがるのかといった事がValuationの観点から考えるとすごく良くわかりました。それ以外にも、セミナーで学んだファイナンス全般の知識があると投資用不動産、住宅ローン、債券、保険商品、クレジットカードなどの金融商品全般の優劣が自分なりに判断できるようになり株式投資だけでなく実生活においても幅広くセミナーで学んだ知識が役立っています。

企業価値評価セミナーを受講して変わった点はたくさんあります。一つは、おかげさまでバリュー投資を通じて資産を大きく増やすことができました。それがきっかけで雑誌から生まれて初めて取材されたりもしました。

もう一つ変わったことがあります。新卒で入った会社が気に入らなかったのでもずっと転職したいと考えていたのですが、自分の本当にやりたいことがわからなかったのでもずっとどんな仕事をすれば良いか決めかねていました。しかし企業価値評価セミナーで、DCF法などのファイナンスの勉強をして、こんなに役にたって面白い勉強があったのかということを知り、これを一生の仕事にしたいと思

うようくなりました。自分は数学が好きだったのでファイナンスの勉強を純粋に楽しいと感じました。そういう経緯で、金融業界に転職することを決意し、転職活動を行っていたのですが、おかげさまで2月より東京の証券会社にて金融業界未経験ながら証券アナリストとして働けることになりました。面接では、企業価値評価セミナーで学んだファイナンスや Valuation などの金融全般の知識がとても役に立ちました。企業の財務分析や投資対象としての調査は自分にとって趣味のようなものなので、楽しくやりがいを持って働けるのではないかと考えています。セミナーで学んだ知識を生かして、証券アナリストとして結果を出し、将来的には自分の夢であるウォーレン・バフェットの様なファンドマネージャーになりたいと考えています。

そして自分なりに、社会に対して価値の創造を行っている企業に対しての資金の提供という形で社会に貢献したいと思います。

自分の天職を見付けるきっかけを与えて下さった板倉雄一郎事務所の皆さんには本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

「企業価値評価コミュニティ、そこにある価値」

おんちゃん (女性)

初受講: 2005年5月(5期)

再受講回数: 10回以上

ブログ: <http://feed-over.jugem.jp/>

1. 「お金がない！」

企業価値評価セミナーとの出会いは、
ネットでの検索中に偶然板倉雄一郎氏のブログ(<http://yuichiro-itakura.com/>)に
辿り着いたことが、その始まりでした。

検索のきっかけは、自分のお金(貯蓄)がなくなりかけ、
将来のお金について考えるようになったこと。
(まあ、なくなった理由は、単純に収入に見合わない使い方を
しすぎただけなのですが(笑))

今後、女性1人でも生きていくにはどうしたら良いか。
例えば子どもを抱えながらだとしても、
生きていくのに必要なお金を得るにはどうしたら良いだろうか。
…株式投資だ、と思いました。
それなら、座っていてもできるのではないかと。

Webで、「投資」とか「株式」とか、そんな言葉で検索し、
辿り着いたのが板倉さんのブログだったわけです。

それからエッセーを毎日読み始めましたが、
何が書いてあるのか、正直ほとんどよくわかりませんでした。
日本語のはずなのに、文字を追っても、書いてあることがわからない(笑)

セミナーに参加するまでは実際そんな理解度でしたが、
でも不思議とピンとくるものを感じました。
彼は“真実”を言っている気がする、もしかして今の私に必要なことを

教えてくれているのではないかと、そう思いました。
おかしいですね、何を言っているのかわからないはずなのに。

その直感を信じ、2005年4月に開催されたオープンセミナーに参加することにしました。
オープンセミナーに対する感想は、
私のブログ(<http://feed-over.jugem.jp/>)に少し書いたので省略しますが、
そこで出会った人々に魅せられて、翌月の合宿セミナーに参加し、
何度も再受講し、飲み会や遊び系イベントにもたくさん参加、
この“板倉コミュニティ”にどっぷりとはまりつつ、今に至ります。

最初はお金がなくなったことから始まった、この2年弱の出会いと学び。
私のこれからの人生にとっても、間違いなく上位を占めるであろう、
大きなインパクトを持ったものになりました。

人生何が辛いかわからない。
まさに、「人生万事塞翁が馬」。
昔の人はうまいことを言ったものです。

2. 心地よい空間

そんな感じで関わり始めたこのコミュニティですが、
これほど深く関わるようになるとは、当初は思いもせませんでした。
その理由を考えると、結局は「楽しいからかな」と思います。
一言で表してしまえば簡単ですが、でも色々な条件が積み重なって、
この状態は初めて実現できるものだと思います。

- ・ 価値観を同じくする人たちが集っている
- ・ 共通言語がある(ここでは“ファイナンス”)
- ・ コミュニティへの参画意識を持った人が多い etc..

そのような人々がいて、初めて楽しい空間・場は作られます。
ここには、この条件を揃えた人々が多いのです。

合宿セミナーにしても、遊び系イベントにしても、
何度も行くのは、そこに魅力的な人がいるから。
選ぶべきは、「何をやるか」ではないと思います。
「誰と過ごすか」を選択すれば、何をしても楽しいのですから。

大好きな人たちが集まる空間は、とても居心地が良いものです。
そこには、目には見えないけれども、
とても体に良いエネルギーが満ちています。

場のエネルギーは人に多大な影響を与えます。
私自身、そのことを体感したエピソードがあります。

合宿セミナーの2日目夜には、いつも打ち上げと称した飲み会が開催されます。
日中は別の予定があったため、私はその打ち上げだけ参加しようと思っていましたが、
あいにくと熱が出てしまいました。
でもあの楽しい場に参加したい一心で、日曜日 18 時に家を出て、
セミナー会場近くで開かれる打ち上げに参加することにしました。

板倉さんを始めとするパートナーの方々、
再受講の常連であるいつもの顔ぶれ、
今回初めて会う人、いろんな人たちと楽しく盛り上がり、終電で帰宅しました。
家に入り、荷物を置き、そこでふと気付きました。
「…あれ??体がしんどくない…」

熱は下がっていました。
全く“安静”にしていなくても関わらず。

(あの場に充満していたエネルギーのおかげだ…)
不思議とそう確信している自分がいました。

自分の身を、どこに置くかはとても重要です。
「自分の周囲にあるものが、自分を作っていく」のですから。
これからもできるだけ、自分にとって心地の良い場を感じる感覚と、
それを選択する勇気を持ち続けたいものです。

そのために、この心地よいエネルギーを発するコミュニティを自ら更に心地よい場にする努力を、続けたいと思うのです。

3. 無知の自覚

ここで学んだことはたくさんあります。
ファイナンス的な知識はもちろんのことですが、
ここでの様々な学びは、私の今後の人生哲学を再認識させてくれました。

本当に書ききれないほどたくさんのことを教わったのですが、
もし、わかったことをあえて1つだけ挙げるとすれば、
それは、「自分は本当に何も知らなかった」ということです。

お金について、以下に無知であったかを知りました。
学校で受けた教育の範囲やレベル、
周囲の大人たちから聞いた話を鵜呑みにして、生きてきました。
「借金は“悪いこと”だ。」
「貯蓄は“良いこと”だ」
「お金について考えることは、“汚くて悪いこと”だ。」
そのような価値観を持って生きてきました。

でも違うのですよね。
自らが生きている社会の仕組みを知ることは、
当たり前で、大切なことなのですよね。

ただ、そのことを板倉さんやパートナーの方々がセミナーで講義するのは、
決して、受講者が仕組みやルールの穴をかいぐり、
たくさん儲けるためではありません。

私が、彼らから感じるのは、
「本当に価値を生み出している人、世の中に価値を提供している人に、
相応のリターンが循環するようにしたい」
という彼らの痛切なる願いです。

社会を構成しているのは、人です。

お金という議決権を持ち、社会を日々生み出し、また変えているのは、私たち1人1人の人間なのです。

その中のたくさんの人々が、資本主義経済というルールを知らず、“誰か”の言いなりになっているとしたら、どうなるでしょう？

段々と、その“誰か”にとって都合の良い社会になりますよね。

それは、価値をたくさん生み出している人が、
たくさんのリターンを得るとは限らない、ということです。

もちろん“価値”ですから、そこに一定の尺度があるわけではありません。
まさに、“価値観”は人それぞれです。

ただ、自分の投じた一票(お金)が、

- ・ どこに行き着くのか
- ・ 誰の元に流れるのか、
- ・ その結果、何が生み出されるのか

そういったことを想像しないで議決権を行使する人ばかりだと、
本当に価値あるものが埋もれていき、
いつかはなくなってしまうのではないのでしょうか。

日本という素晴らしい国が、そのような道を迎らぬように。

その社会を構成する人に、今は一部の人だけが持っている“知識”を持ってもらうこと、
それこそが自分たちの貢献すべきところだと、
彼らと話していると、その背後には常にそんな思いを感じるのです。

学びの第一歩は、「知らないことを知る」ことから始まります。

自分の無知を認めるのは、多かれ少なかれ勇気が要ることはありませんが、
でもこれからまだ自分自身が、そして自分の子どもたちが生きていく社会を
想像すれば、そこで必要な勇気など、小さく思える気がするのです。

4 . Let's ask what we can do !!

「自分に何ができるかを考えよう、そして実行しよう。」
これは、企業価値評価コミュニティの中で静かに息づく合言葉です。
板倉さんを始め、このコミュニティを愛している人たちは
みんな持っている価値観です。

「Ask not what your country can do for you,
ask what you can do for your country.」
(祖国があなたに何をしてくれるかを尋ねてはなりません、
あなたが祖国のために何をできるか考えて欲しい)

このジョン・F.ケネディの就任演説は有名ですが、
まさに言わんとすることはこれと同じです。
自分が所属する組織、そこで生まれる場のために、
大きくは日本のために、更には地球の一員として、
まずは自分に何ができるかを考える。
全てはそこから始まるのです。

受身の人間ばかりがいる組織は、とても弱く、脆いです。
それは自ら価値提供をしようとする人間がないから。
家族や会社という小さな単位であっても、地球という大きな単位であっても、
それは同じです。

確かに、国や地球規模で見れば、1人1人の直接及ぼす影響は
それほど大きくないかもしれませんが。
でも、全てのものは循環しているのです。
自らの投じた一票は、確実に社会を作っているのです。

何気なく道にポイと捨てた煙草は、
その捨てる行為を見て嫌な気分になる人を生み、
1本捨ててあることで次に捨てやすい環境を作り、
そのごみを拾うという、あまり嬉しくない作業をする人を生み出します。

捨てる瞬間、それを意識している人がどれほどいるでしょうか。

心の中で未来を想像し、ありたい姿をイメージし、
そこに近づくために自らができることを、実行できるレベルで進めていく、
そのことだけが、理想の未来を作るのだと思います。

本気で、そう思える人を増やそうとしていることが、
私がこのコミュニティに惹かれる理由でもあります。

私も、その未来を実現したいから。

お金に不必要に振り回される人生ではなく、
みんなが本当に必要なだけの資産を持ち、
本当に豊かに暮らせる社会を実現するために、
これからも、自分にできることを積み重ねていこうと思います。

ここで出会った皆様、
本当にありがとうございます。
皆様からたくさんの刺激と、学びと、喜びをいただきました。

これからも共に、素晴らしい社会を生み出していくような方向へと
歩みを進めていきましょう。

ご縁をいただいた感謝を込めて。

おん

板倉雄一郎事務所

パートナーの声

「企業価値評価セミナーと私」

パートナー S. Takamura

2004年8月よりパートナーとして板倉雄一郎事務所参画

私が、板倉雄一郎事務所の活動に参加したきっかけは、2004年夏ごろにウェブサイトで募集していたバリュエーションのためのデータ入力の手伝いに応募したことでした。

「社長失格」を通じて、板倉氏を知り、その後、「懲りないくん」やウェブサイトをちよくちよくチェックしていました。仕事でやっていたバリュエーションに関する募集があったので、なにか価値提供できそうだし、面白いことができるかもという軽い気持ちで応募したことが、人生の転機となりました。

約3年弱、事務所の活動に参加してきたのですが、板倉氏本人、もしくは、20数回にわたる企業価値セミナーを通じて、非常に多くのことを学ばせて頂いたと思います。今回は、その中から印象に残ったことをいくつかピックアップしてご紹介したいと思います。

「教えることは教わること」

私も、講師として企業価値セミナーに参加させて頂いていますが、20数回の講義を行った今でさえも、新たに教わることがあります。受講生の方から、自分では考えも及ばなかったことに関して、質問や指摘を頂き、そんな見方もあるのかと新鮮に感じるとともに、まだまだ精進が必要だなと感じさせられます。多様なバックグラウンドを持った人が受講されるからこそ、色々な視点でものを考えることができ、新たな発見があるのだと思います。

「貧乏暇なし」

板倉氏が好んで使う言葉ですが、氏の解釈では、「貧乏だから暇がないのではなく、暇がないから（考える時間がなく）貧乏なのだ。」となります。とにかく、よく考えることが大事だと痛感させられます。受験戦争の申し子として育った私は、短時間に大量の処理が必要だったため、記憶偏重型でした。会社に入社してからも、2年間で30個の資格試験を受ける必要があったため、記憶偏重型のスキルも役に立ちましたが、この活動を通じて、「考えること」の重要性を再認識し、すっかり思考偏重型に変わりました。以前は可能な限りの情報を収集するため、年間300 - 400冊近い書籍を読んできましたが、いまでは冊数を絞って、考える時間を取るようになりました。

「支払った価格以上の価値を手に入れる」

「価値と価格」の違いを知ることは、この企業価値評価セミナーの主題の一つですが、この約3年弱の間に、「価値と価格」により敏感になりました。日常生活において、大阪出身の私は価格志向が

強かったのですが、より価値志向になりました。例えば、買い物に行って、何かを買う場合でも、以前は迷ったときは、価格で最終決定をしていたのが、最近はそのウラにある価値で考えるようになりました。

「ルックスルー」

企業価値評価は、DCF 法を使って企業の価値を算出することを目的としています。しかし、企業価値そのものを求めることは重要ですが、企業価値評価というプロセスを通じて、その企業の本質、ビジネスモデルを考えることがより重要であると思います。多種多様なメンバーが集まる本セミナーにおいて、「ファイナンス」という言語で、色々な角度から企業のビジネスモデルの議論をすることは、非常に有意義であり勉強になります。

「企業は人なり」

企業価値評価は、企業がどのような価値を生み出しているかを分析します。企業といっても、大部分の価値を生み出すのは人です。株主の視点からみて、その企業の経営者、および、従業員が価値提供をしているかをチェックするののも一つのポイントです。翻って、立場を変えて考えてみると、自分が、会社や社会に価値提供しているかどうか常に意識させられるようになりました。しかし、逆に考えると、価値提供できる人材であれば、将来食いつぶされることもないと安心でき、価値提供できる能力を磨くのに力が入るようになりました。

この企業価値評価セミナーに、パートナーとして参加して、人生に大きな影響がありました。毎回何かしらの新しい発見があるセミナーですが、この機会が続く限り、皆さんに対して自分ができる価値提供を行うとともに、自分も成長していければ、と考えています。

「企業価値評価セミナーを通じて」

パートナー 国本智映

2004年8月より、パートナーとして板倉雄一郎事務所参画

板倉雄一郎事務所では、板倉雄一郎事務所主催で開催したセミナーからセミナーの事務局とエクセル基礎講座を担当させていただいています。

良く懇親会などで「板倉氏との出会いは何ですか？」と聞かれるので、今回は改めてその出会いをご紹介させていただきたいと思います。

板倉氏を初めて知ったのは、テレビ東京でやっていた「ウィナーズ」という番組でした。

その日は仕事を終えて家に帰ってきて、何となくテレビをつけてぼんやりしているとたまたま板倉氏が出てきました。

内容は残念ながら失念してしまいましたが、ダウンタウンの浜ちゃんとの掛け合いがテンポ良く「この人面白い人だなあ」と鮮明に思ったのを覚えています。

ただ、テレビに出ている人って大体がそうだと思いますが、単に「面白かった」でその時はそのまま終わりました。

その後、しばらくしてから偶然本屋さんで「社長失格」が平積みになっているのを発見します。

多分名前とかをぼんやり覚えていたのでしょう。

「ウィナーズに出ていた面白い人」＝「板倉雄一郎氏」という名前をそこで初めて認識しました。

「あ、あの時ウィナーズに出ていた面白い人の本だ！」と思いました。

どんな人なのかな？というのに興味があって、「社長失格」を購入しました。

「社長失格」はタイトルもキャッチーですが、内容も非常に感情移入して正直涙ぐむシーンも何度かありました。

途中、何度も何度も「これがノンフィクション？」って思いながらそのまま途中止まることなく一気に読み終えてしまいました。

そして、読み終えたとき、ふと「この人って今何してるんだろう？」と疑問に思いました。

そこからは大体ご想像通りですが、検索サイトから板倉雄一郎事務所のWebサイトを知り、掲載されているコンテンツを読むと、板倉氏の考え方や活動の一部を知ることが出来ました。

そこで述べられている板倉氏の考えは非常に真っ当で、合理的かつ理想的な思想でした

そして、その中のコーナーでたまたま「スタッフ募集」というのがありました。

その時IT系の会社に勤めていたので、ファイナンスの知識はほぼ皆無でしたがPC関係やIT系の知識や経験はありました。

何かお手伝いできないかと思い(本当は、面白い人なので一度会って見たいなあと思ったのが本音ですが)、スタッフ募集に応募してみると、数日後板倉氏から直接メールが来ました。

確か、「飲み会があるから、ちょっと来ない？」みたいな内容だったと思います。

軽い気持ちで参加してみると、板倉氏からは「じゃ、次からよろしく！」と言われて「えっ？」っと聞き返す間もなく既に別のグループとの話に夢中になっていました。

そして、そこからかれこれ2年半が経ち今に至ります。

あの時、社長失格を手にとっていなければ、「単なる面白い人」で終わったでしょう。

あの時、メールを出してなければ板倉氏に出会うこともなかったでしょう。

あの時、気軽に飲み会(合宿セミナーの前身のセミナーの懇親会でした)に参加していなければ、板倉雄一郎事務所に関わることは無かったでしょう。

あの時……。

板倉氏に出会ってから、今までの自分の価値観を根底から覆すような沢山の価値をもらってきました。

たとえば

「お金とは社会に対する議決権である」

「社会に対して価値提供を行う」

「ルックスルーで考える」

「貧乏ヒマなしではなく、ヒマが無いから貧乏である」

「価値を創造するのは人」

などなど、板倉氏の名言を上げていけばキリがありません。

いつも、分かりやすい例の比喻を取り入れながら本質を語る姿は、何度同じ話を聞いても毎回学びがあります。

また、相手をとことん楽しませようとするエンターテイナーでもあります。

そして、多くの人にファイナンスを伝えたいという情熱と真摯な姿勢は非常に尊敬しています。

その価値観を元に集まった仲間(パートナー)は、非常に優秀かつ人間的に素晴らしい人物ばかりです。

一緒に活動できるのはこの上なく幸せですし、そこで魅力的な受講生や卒業生と新しい出会いが

あるこの環境にとても感謝しています。

これからも、板倉雄一郎事務所と共に自分自身楽しんで成長していきたいと思います。

「企業価値評価セミナー受講から2年半を経て」

パートナー N.Ohashi

2004年10月第一回受講、2005年2月よりパートナーとして板倉雄一郎事務所参画

企業価値評価セミナーの第一回開催は2004年10月でした。もう2年半も経過しているかと思うと時間経過の早さに驚くばかりです。そして2年半で学んできたことの多さにも驚くばかりです。

板倉雄一郎事務所との関わりはセミナー受講生としてでした。セミナー開催の少し前から知人の紹介で板倉雄一郎事務所のウェブサイトを見るようになったところ、セミナーの開催が告知されていたので早速申込んだのです。

受講しようと思ったきっかけは株式投資とファイナンスに関して理解を深めたかったこと、第一回目の開催だったからです。なんでも一回目というのは刺激的です。

現在の合宿形式とは異なり、6週に渡る通学形式で、初回は現在でいうオープンセミナー形式。以降5週間は初回を受けてから継続するかを決めることができました。

すぐに申込んだとは言え、実は肝心の第一回の受講日がアメリカに行く用事と重なっていて少しの迷いがありました。最終的にアメリカでの用事はキャンセルしてセミナーを受講することに決めました。その時、知人にメールを書いていた。

「アメリカに行こうと思っていたのですが、こちら(セミナー)のほうが将来にわたって今受講することによる価値が大きそう」

我ながらナイスジャッジだったと思います(笑)

そして受講初日の10月23日。板倉さんが話を始めて5分が経ったころにはもう、後の5週も継続して受講することを決めていました。それほどに面白かったのです。そして3時間が「あっ」という間に過ぎ、翌週からの5週間もあっという間に過ぎてしまいました。

セミナーの内容にも大変満足しましたが、もうひとつの収穫は知識に対してお金を払うということを初めて意識できたことでした。板倉さんの身をもっての経験と知識にお金を支払う意義を感じました。

板倉さんの話、講義のおもしろさもその理由ですが、6週間のセミナーが終わり板倉雄一郎事務所のウェブに書かれていること、ファイナンスに関する書籍の内容が以前に比較して驚くほど理解深まっていたことも大きな理由です。

恥ずかしながらそれまでは学費や本代などは知識への対価という意識が欠けていたと思います。内容(価値)に対して高い安いというよりは、他の何か(価格)と比較して高い安いという見方をしていたと思います。

この体験をもう一度味わいたくなりましたし、多くの人にも伝えたいくなりました。そして、その年の暮れ、板倉雄一郎事務所主催の忘年会が開かれたときに板倉さんに言いました。

「次のセミナーを手伝わせてください」

答えは

「いいよ。エクセルとかサポートしてよ。」

とあっさり(笑)

合宿セミナー形式となった第2回からエクセル入力に詰まってしまう人をサポートしながら再受講をし、懇親会では企業価値評価という共通言語を得た受講生と話が盛り上がりました。

良い意味でまだ形の出来上がっていないセミナーでしたが、より良いものを作り上げるために力を出したい。そういう思いが強くなっていきました。

そうしているうちにパートナーとして板倉雄一郎事務所と関わらせて頂くことになり、多くの受講生と接し、常に改善を目指して回数を重ねて来ました。

セミナーが小さな変化を重ねながら今日まで続いてきたのは、板倉さんと板倉雄一郎事務所のパートナー、なにより受講生と卒業生の方全ての人によります。受ける側も決してお客様のままでいない人が多いことは実に魅力的です。

いいもの作ろうぜ、と主体的に関わることの出来る人が多いコミュニティー。

このようなコミュニティーが形成されていく過程に最初から身を置けたことは大変な学びであり大きな喜びです。

主体的に学ぶことがいかに大切かを学び続けた2年半でした。

企業価値評価セミナーを機に出会った人への感謝の想いは尽きません。

今後も板倉雄一郎事務所の活動を通じて多くの人と喜びを分かち合いたいと思います。

「企業価値評価セミナーと私」

パートナー 吉原信一郎

2005年10月の第9期を受講後、パートナーとして板倉雄一郎事務所参画

現在、私が板倉雄一郎事務所の活動にパートナーとして参加しているのは、2005年10月の第9回合宿セミナーを受講したことがきっかけです。

私が板倉さんのことを始めて知ったのは「社長失格」を読んだ時でした。当時、公認会計士として監査法人で働きながら、将来はベンチャー企業の経営に参加してみたいと思っていた私にとって、ベンチャー企業の栄光と挫折を描いた「社長失格」はとても刺激的な本でした。

それから時は流れ、気持ちの赴くままに監査法人から上場準備のベンチャー企業へ転職した私は、板倉さんのことを思い出すこともなく、仕事に追われる日々を過ごしていました。

転職先が上場した後、IR 業務を担当していた私は、多くの新興企業が繰り出す「株価を上げるための様々な資本政策」により新興市場が暴騰する様子を見て、なんとも言えない違和感がありました。

「どうして、こんなので株価が上がるの？オレの考えがおかしいのかな・・・」

そんな時に、ふと板倉さんのことを思い出し、インターネットで検索したところ、板倉雄一郎事務所のWEBサイトを発見しました。そこでは、板倉さんが、新興企業ブームに沸く世間をよそに、「新興企業による一連の株価対策はインチキ」だと指摘していました。

その指摘に激しく同意した私は、板倉さんのエッセーを過去の分まで読み込み、「合宿セミナー」を開催していることを知りました。

私は公認会計士として働いてきたことから、教えようとしている内容は見当がついたため、合宿セミナーを受講するかどうか少し悩みました。

私の彼女に話した所、「20万円以上も取るセミナーなんて怪しいに決まってる。アタマがおかしいんじゃないの!？」なんて言う始末。

(それが今では、彼女ぐるみでこのコミュニティーとお付き合いしているのだから、わからないものです。)

それでも、「このセミナーは「ベンチャー起業家による投資教育」であり、単なる会計や財務の知識を超えた何かがあるのではないか？」という期待を押さえきれず、合宿セミナーへ参加することにしました。

結果は私の期待を上回るものでした。

このセミナーでは、企業価値創造のメカニズムを理解するための会計や財務の知識の基本的な部分を押さえつつ、様々な分野に応用できる「考え方」を身につけることができます。

私はこのセミナーを受講することで、過去における自分の知識・経験が有機的に結合する感覚を味わうことができました。それぞれバラバラのように感じていた知識や経験が、「こんなところでつながっていたんだ！」と気付くのは、とても楽しい経験でした。

そして、このセミナーを受講後、IR 業務や自身の株式投資を行う中で「ミスターマーケットの気まぐれ」に惑わされることが少なくなりました。

全くなくなったとは言えません(笑)

ファイナンスの世界は奥深いので、まだまだ精進が必要なようです。

また、予想以上に良かったことは、様々なバックグラウンドを持つ方との出会いです。

正直、受講前は、「板倉さんは名前だけ貸してほとんど出てこないかも？」なんて思っていたのですが、受講してみると、板倉さんは、講義のみならず、休憩中や打ち上げ時にも、受講生と気さくに色んな話をしていました。板倉さんの脇を固めるパートナーも芸達者な方々が揃っていて、人間的な魅力を感じました。

セミナーの受講者についても、金融関係者ばかりが参加するものと思っていたのですが、受講してみると、様々なバックグラウンドを持つ方が老若男女問わず参加されていました。

金融を本業としていない方々が2日間のセミナーを通じて、ファイナンスの奥深い部分を理解していく様子を目の当たりにして、これでメシ食っている私は「うかうかしてられないな…」と思いました。

このセミナーに対して20万円以上の価格を超える価値を見出し、参加される方々というのは、自主性に溢れ、面白い考え方を持った方ばかりです。日常生活ではなかなか出会えない面白い方々との出会いは、貴重な価値だと思います。

私は、合宿セミナー受講後、縁あって板倉雄一郎事務所のパートナーとして参加させて頂きました。

このコミュニティに参加された方々(これから参加されるであろう方々)との未永いお付き合いから得られるものがどんな素晴らしいものになるのか、とても楽しみです。

「合宿セミナーと私」

パートナー 石野雄一

2005年11月よりパートナーとして板倉雄一郎事務所参画

「すごい！こんなセミナーが日本でやってるなんて！」

忘れもしない2005年5月28日のことだった。私は、パートナーの橋口さんの紹介で、合宿セミナーに、ゲストとしてよんでいただいた。

当時、私は、すでに「道具としてのファイナンス」の原稿を書き始めていた。
したがって、ファイナンス理論については、十分に理解しているという自信もあった。

ところがそんな私がえらいショックを受けたのだ。特に板倉さんの話は、素晴らしかった。こんなに情熱をもって、熱くファイナンスを語る人がいるとは、にわかには信じられなかったのだ。私の中で、ファイナンス理論が映像をともなって、動き出し、結びつくのを感じることができた。

それこそ、板倉さんはもちろんのこと、パートナーたちの話を細大もらさず、必死にメモをとった。二日間で私が記したメモは膨大な量となった。いまでも、ときどき、そのメモを読み返すと当時の感動がよみがえってくる。
その一部をご紹介したいと思う。

【板倉雄一郎語録】

- 1) 「期待収益率」は間違いやすい言葉だ(株主の期待が高まってなぜ株価が下がるのか？という話になってしまう)「リスク認識」とすべきだ。
- 2) 30百万円のキャピタルゲインはすごいか？これを判断するには、
投下資本
調達コスト
TOPIX
を考慮する必要がある。
- 3) 価格と価値は違う。世の中、常に価格よりも価値があるものを手に入れていけば間違いない

- 4) 企業の価値は、立場によって違う。ここで学ぶのは、あくまでも投資家からみた企業価値である
- 5) 債券や不動産は価値「創造」しない(再投資は自分で行う必要がある)
- 6) ROIC を追求しすぎると WACC もある程度引っ張られる
- 7) 経常利益という概念は、英語にはない。経常利益とは、営業利益から負債コストを控除したもの。株主資本コストは無視した経常利益は、グローバルでは使われない。
- 8) 人間に能力の差はない。「思いの強さ」こそがその人の特徴である。
- 9) すべて、自分の言葉に置き換えて考え、理解する必要がある(例:LBO は住宅ローン)
- 10) お金を使う時には、誰の懐にそのお金が入るかを考える必要がある。法律で認められているからといって、ラスベガスでギャンブルをやるのか？
- 11) お金というのは議決権である。自分の信じることを、仕事や消費や投資として実行する。その信念に賛同する人たちがたくさんいれば、自然とお金は集まる。
- 12) 稼ぐことと社会貢献を別に考えるのはナンセンス。今からでも社会貢献はできる。儲けたお金で、あとから寄付をすればよいのではない。そんなのは、荒稼ぎの言い訳にしかすぎない。

実は、企業価値評価は、コーポレートファイナンス理論の集大成ともいえるほど、高度な知識と経験が要求されるものである。

これほどの内容を2日間で、ましてやこの価格で提供する集団は、この日本にはいないと断言できる。

いまでは、板倉雄一郎事務所パートナーとして、素晴らしいコミュニティーの一員であることに喜びと誇りを持っている。

今後も、板倉雄一郎事務所の活動の目的のひとつである「日本人のフィナンシャルリテラシーを高める」ことに、取り組んでいきたいと思う。

「現代を生き抜く一つの「知」の共有」

パートナー M. Mori

第 21 期を受講後、パートナーとして板倉雄一郎事務所参画

1.市場主義社会に生きる現代人

今の世界に生きている限り、市場、すなわち物やサービス等と貨幣が交換される場から開放されて生きていくことはできない。コンビニエンスストア、百貨店、インターネットショッピング等、現代の日本人が日常的に触れる市場は、いまや世界でも最も成熟した商品市場の一つであることは否めない事実である。成熟した市場においては、時として、複雑ゆえに貨幣を支払っている者が自らの差し出したものと交換したものが何であるのか、わからなくなってしまうことがある。それを知り、自らの頭で理解することは、重要なことである。

さらに、株式市場は、株主や株主になろうとする者同士が互いにしのぎを削る資本家のための資本家による市場である。株式市場について学ぶことは、資本を学ぶことであり、貨幣を学ぶことであり、市場を学ぶことであり、株式市場で売買されているもの(企業)について学ぶことである。

資本や貨幣、市場や企業について学ぶことは、現代社会というジャングルにおけるサバイバル術である。今のところ私が知る限り、このセミナーは、市場というものについて最も「わかりやすく」伝えてようと日々努力している。

2.お金が儲かるなら何でもやっていい…はずがない！

「経済の仕組みを学習すること」「カネの亡者になること」(ITAKURASTYLE December 15, 2005)

このような考え方がこの事務所になれば、私は、パートナーにはなっていなかったであろう。

150 年以上前のことであるが、ある哲学者が資本の機能について次のようなことを言った。

『まず第一に挙げられるのは、資本制的生産過程を動かす動機および規定している目標は、資本の自己増殖をできるだけ大きくするということである。すなわち、できるだけ多くの剰余価値を算出し、資本家が労働力をできるだけ大きく搾取することである。』(Karl Marx 著、今村仁司・三島憲一・鈴木訳「資本論」第一巻(上)(筑摩書房)487 頁)

すなわち、資本は「住むところを提供する」「食べるものを提供する」といった目的のために生産を行うのではなく、剰余価値(価値と価格の差)の追求、すなわち「もうけ」のために生産を行い、したがって、スラム街が発生し、飢餓が生じたとしても、もうけが生じなければ資本は生産をせず、逆に兵器など社会にとって有害なものでも、もうけが出れば資本は生産するという、資本に対する指摘である。

この指摘は、資本というものの性格を突いている。だが、資本を保有する者の姿勢で、幾分か修正

できるのではないだろうか。経済の仕組みを学習することは、カネの亡者になることではない。広く
知恵を共有すること、その中で互いの人格を尊重し、貢献できるところで貢献すること、知恵を持つ
者がその知恵を自らのためのみに使わないこと、このような理念は、株式投資におけるあり方を教
える側のモラルである。そして、このモラルがあって初めて、資本や貨幣、市場や企業についての
知識が生きるのである。この「場」は、このようなモラルを含めて、今まで独占されてきたこれらにつ
いての理解を広く共有しようとする試みであり、今、それを実践している。

「板倉雄一郎事務所と私」

パートナー 下田浩司

2005年3月よりパートナーとして板倉雄一郎事務所参画

私が最初に板倉さんにお会いしたのは、2005年の3月でした。当時、板倉雄一郎事務所では、統計の知識を持った人を探していたところでした。

合宿セミナー受講生のNさんから「板倉さんが統計が出来る人を探しているから、下田君紹介しようか？」という話をいただき、二つ返事をお願いしたというわけです。

「社長失格」を読んでいたもので名前は知っていたものの、講演を聴いたことがあるわけでもないので、ゆりかもめに乗りながら、ワクワクしていたことを覚えています。

ホテル日航東京のとある部屋で、初めてお会いしたのですが、第一印象は、凄くパワフルでサービス精神が旺盛な方だ、というものでした。板倉さんの話は、聞いたことがある方なら納得かと思いますが、聞き手を飽きさせない魅力がありますよね。内容も宇宙の話からエロトークまで、様々な分野にわたり非常に楽しい時間でした。

その初めてお会いした日にいただいた話が、板倉さんが考えていたことの証明をやってみないか？というものでした。私は社会的意義のあるこの命題にチャレンジすることに魅力を感じ、即答しました。しかし、現時点(2007年1月)で、残念ながら証明できていません…。まだまだ諦めていないのですが。

ちなみに今では、いわゆるIT系広告代理店に勤めているノウハウを生かして板倉雄一郎事務所のWebのSEOやログ解析や統計に関するエッセイを書いて事務所への価値提供を行っています。

さて、私が板倉雄一郎事務所に関わっていて、良かったな～、と思う点がありますので、挙げていきます。

1. バリュエーションを分かりやすく学べること

私自身は大学院の研究でファイナンス理論と統計を使ったモデルを扱っていたので、ファイナンス理論は一通り独学で学んでいたのですが、かなり大変だった記憶があります。教科書的な本は、

研究者に上げ足を取られないように正確に書こうとするので、全容を把握するのに重要なポイントはどこかが分かりにくい、という弱点を持っています。どうしても学ぶのに時間が掛かってしまうんですね。

私も例に漏れず、まずどの参考書が良いのか分からなかったですし、良い本に当たったとしても、分からない部分のために、新たに参考書を買ひ足したり・・・と結構散財もいたしました。遠回りしたくないのであれば、合宿セミナーで学ぶのが、時間・金額ともが一番費用対効果が高いですね。そして学生時代にこのセミナーで学ぶことができれば、もっと余裕で良い論文かけただろうな～、と思います。

2.色々な面で話が有機的なつながりをもって理解できること

企業価値評価セミナーで学べるのは、単にファイナンスの知識だけではありませんでした。以前、パートナーエッセイで、統計を使って競馬で儲けていたときの話を書きましたが、競馬であげた利益に対して感じた、何とも言えないモヤモヤ感を言語化してくれたのは、板倉さんであり、合宿セミナーでした。デイトレーダーが価値を全く生み出していないように、当時の私も全く価値を生み出しておらず、それが直感的に気持ち悪かったのです。パートナー参加時は競馬は止めていましたが、やっていた当時のモヤモヤ感の正体を知ることが出来た私は凄くスッキリしました。

セミナーでは、ファイナンスという側面を理解するために、様々な例が用いられます。そして、そういった様々な例が分かりやすいのは、物事の本質は変わらないためだと思います。セミナーではファイナンスという切り口でそれに触れますが、それらの本質的な話が有機的なつながりを持って理解できるようになると、今度は触れた本質から逆算して人生の様々な場面で生かすことが出来るようになります。これも私にとっては考えもしなかった収穫でした。きっとこの収穫は今後も人生の様々な場面で役立つことでしょう。

3.妻とファイナンスの話が出来るようになったこと

家庭でファイナンスの話をする、というと実にマニアックな家庭だと思われるかもしれません(笑)。しかし、オープンセミナーしか出席していないウチの奥様は、セミナー参加後、板倉さんの著書を読み、DVDを観て、今では利子の概念も理解しました！またおりおばを読んで、おりこうさん、おばかさんの違いも理解できたようです。

先日も地元のクリーニング店の値段設定(Yシャツ1枚100円だけど、ハンガーを返すと10円が戻ってきます)を考えて、「この企業はおりこうさんだね。だって、こうすることでハンガーの無駄な仕入

れるも減るし、お客さんもハンガーを返すためにまた来てくれるし。お客さんも企業も両方嬉しいよね。」という話をしていました。また、トヨタの営業マンの話(知り合いが車を購入した際に、営業マンに10万円で5年間の修理保障をつけることが出来て、しかも、5年間、無事故・無修理だと全額戻ってくるという話)を聞いて、「5年後の10万円と今の10万円は違うのにねえ」と言いました。付き合い始めの頃からは考えられない変化です！

最後になりますが、このように、企業価値評価セミナーは概念だけではなく、経済の流れの理解、株式投資による収益、その他人生での様々な実益をもたらしてくれますね。パートナーとしてセミナーに関われることに感謝しつつ、今後も板倉雄一郎事務所の様々な活動を通して、価値提供を行っていきたいと思います。

編集後記にかえて

パートナー 橋口寛

2004年8月よりパートナーとして板倉雄一郎事務所参画

この冊子を編集して

この冊子を編集することは、私にとって、とても特別な時間でした。

二日間、ホテルに缶詰になって行う「企業価値評価セミナー」には、講義時間以外にも、受講生・再受講生の方々と話す機会が多くあります。

講義の合間の休憩時間、懇親会の席、深夜のロビー、打ち上げの席-----。

さまざまな場で、多くの方々から

「受講したことで、こんな変化があった」

「このセミナーは私にとって、こんな意味があった」

そんな話を聞きました。

そのすべてが、素晴らしい話でした。

私はいつも、それらを感動とともに聞かせていただきました。

やがて、それらのストーリーのひとつひとつを、「かたちにしたい」と思うようになりました。

すべてのものは永遠ではありえないから、今は毎月行われている「企業価値評価セミナー」も、やがては終わる時がやってきます。

こうして受講生の方々と話し、後日談を聞くことのできる時間は、いつまでもそこに存在してくれるものでは、決してありません。

そう思うと、ここで聞いた話を文章のかたちでまとめたい、という思いは、どんどん大きくなっていきました。

板倉さんに伝えたところ、彼もちょうど同じように思っていたということでした。

はじめは、「10人くらいは書いてくれるのではないか」と思っていました。

こんなにも集まるとはまったく思っていなかったのです。

しかし、メールで届く文章の量は、予想を大きく上回っていました。

10人、20人、30人、40人、、、最終的にパートナーを含めて50人以上の人がここに文章を寄せてくれたのです。

編集している過程は、幸せでした。

仕事を終えた深夜、届いたメールを読み、添付されていたファイルに名前をつけて保存し、感謝のメールを送り、またやりとりする-----。

その作業のすべてが、楽しい時間でした。

すべての始まり

私にとってのすべての始まりは、3年前の夏にたまたまどこかのサイトからのリンクで板倉雄一郎事務所のウェブサイトに辿りついたことでした。

たまたまその日のトップが「スタッフ募集」の記事だったことには、今となって思えば何か運命的なものを感じます。

2004年8月16日。お台場の日航ホテル東京。

ベッドに腰掛けた私に板倉さんが訊きました。

「MBAを持ってる橋口さんが、なんでまたスタッフに応募したんですか？」

その質問に対して、

「理由はふたつありまして、ひとつはいつも苦労している将来キャッシュフロー予測の板倉メソッドを知りたいということです。もうひとつは、単純に板倉雄一郎と友達になりたかった、ということです」と応えたのを覚えています。

今となって思えば、前者のような回答をしている時点で本質が分かっていないという証拠であり、いやはや、お恥かしい限りです。

(板倉さんの回答は、前者に対しては、「そんなものはない!」、後者に対しては、「よろしく!」というものでした。)

また、その場で、

「国民のフィナンシャルリテラシーの低さは危機的である」

「フィナンシャルリテラシーを高めないと、この国は本当にまずいことになる」

という話をしたことを覚えています。

それから二ヶ月ほどで、現在の「企業価値評価セミナー」合宿の雛形となる、6日間通いのカリキュラムが出来上がり、さらに数ヶ月ほどで、合宿セミナーのコンテンツが出来上がりました。

企業価値評価セミナーとは何か？

「企業価値評価セミナー」の特徴は、以下に集約されると思います。

- 常にユーモアを忘れず、楽しむ。(休憩時間や懇親会を含めて、本当によく笑います。しかも面して学ぶことは、決して学習効果を高めないと思います)
- ただ、耳で聞きメモを取るだけでなく、皆で一緒に手を動かしてやってみる。
- 常に「本質的にどういう意味か」を問う。(理論を一方向的に講義することは決してありません)
- 視点を固定せず、メタファを多用する。(したがって、スポーツや、恋愛や、夫婦関係や、人生や、量子力学や----さまざまな対象へと話題は自由に飛躍します)
- 初心者とプロフェッショナルが、それぞれに学べるコンテンツである。(世の中のほとんどのセミナー・研修は、受講生のレベルを明確に規定しているのとは対照的です)
- 再受講のコストを最小化することで、学べば学ぶほど価値が高まるシステムとしている。
- 再受講生が受講生をサポートすることで、コミュニティのつながりと「教えることによる学び」を得られる。

この冊子の中でも、皆さんから以下のようなコメントをいただいたことが、それを裏付けていると思います。

「板倉雄一郎事務所の活動というのは、参加すると本当に価値がどんどん増大していくようになっていると実感しています。」(S.Hさん)

「この再受講を含むサポートシステムがあるため、特別頭のイイ人でなくても、また経理の知識があまりなくてもきちんと理解できる、非常によく練られた素晴らしいカリキュラムであると思う。」(T.Sさん)

「そして何より私に今でも興味を抱かせるのが、板倉さんをはじめ事務所や周囲の人たちが、本来、難しく眠くなるような会計とか財務とかいいうわゆるファイナンスの理論を、“楽しみながら”やっているということである。最初のおりおばセミナーのときも、開始前にロビーで待っている間に、受付の隅にあるパーティションの向こうから事務所の皆さんたちと思える爆笑する声は何回となく聞こえてきて、当時不思議に思っていたことを思い出す。この楽しむということもセミナーで教わったことの一つである。」(S.Hさん)

「私はこの企業価値セミナーで、ファイナンスの勉強をしているつもりであるが、実際には他のことを学んでいる気がしてならない今日のこの頃である」(S.Hさん)

「板倉雄一郎事務所、セミナー卒業生のコミュニティ自体の素晴らしさ。これは自分が努力してどうにかなるものでもないから、実は一番凄いことかもしれない。」(G.Kさん)

「私としてはビジネススクールで学んでいたからこそ、その凄さを肌で体感することができた、と断言できます」(M.Hさん)

私自身、これまで22回の合宿セミナーを行うたびに、必ず何か新しいことを学んでいます。この会場の中で、どれだけ多くの気づきや、思索の深まりを得られたことが。

企業価値評価セミナーとは、あらゆる世代の、あらゆるバックグラウンドの方々が、楽しみながら、さまざまなことを学ぶ場なのだと思います。

継続させてくれたことに感謝

これまで、二年半、22回のセミナーを行ってきました。
累計で600名近い方々に受講していただきました。

しかし、もしもどこかで申込が途切れていたら、この結果はありませんでした。

もちろん、我々は、

「この活動には価値がある。絶対にその価値を感じる人が集まってくれる」
と思っただけでしたが、今思えば、決して100%の確信があるわけではありませんでした。
もしもどこかで、参加して下さる受講生がいなくなっていたら、我々は諦めていたか、何か方法論に間違いがあったはずと思い込んで、アプローチを変えていたでしょう。

そういう意味で、この二年半の活動は、

「我々板倉雄一郎事務所が継続した」のではなく、
「これまで参加いただいた皆さんによって、我々が継続させていただいた」のだと思います。

この「22回」という結果も、この素晴らしいコミュニティも、この二年半、途切れることなく参加して下さった、今までのすべての受講生の方々が作り上げたものだと思うのです。

おわりに

この幸福に満ちた編集作業も、これにて終わりです。

あらためて、ご協力いただいた卒業生の皆さんに、心の底からの「ありがとう」を申し上げたいと思います。

そして、まだお会いしたことのない誰かに、この大部の冊子をプリントアウトされ、読んでいただいた誰かに、未来のどこかの時点でお会いする機会があることを、楽しみにしています。

ありがとうございました。

了